

有 価 証 券 報 告 書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成28年4月1日
(第48期) 至 平成29年3月31日



新日本空調株式会社

(E00227)

第48期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

有 価 証 券 報 告 書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。



新日本空調株式会社

目 次

頁

第48期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	6
5 【従業員の状況】	6
第2 【事業の状況】	7
1 【業績等の概要】	7
2 【生産、受注及び販売の状況】	7
3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	9
4 【事業等のリスク】	10
5 【経営上の重要な契約等】	11
6 【研究開発活動】	11
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	12
第3 【設備の状況】	14
1 【設備投資等の概要】	14
2 【主要な設備の状況】	14
3 【設備の新設、除却等の計画】	14
第4 【提出会社の状況】	15
1 【株式等の状況】	15
2 【自己株式の取得等の状況】	20
3 【配当政策】	21
4 【株価の推移】	21
5 【役員の状況】	22
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	25
第5 【経理の状況】	33
1 【連結財務諸表等】	34
2 【財務諸表等】	63
第6 【提出会社の株式事務の概要】	78
第7 【提出会社の参考情報】	79
1 【提出会社の親会社等の情報】	79
2 【その他の参考情報】	79
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	80

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月26日
【事業年度】	第48期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
【会社名】	新日本空調株式会社
【英訳名】	Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 夏 井 博 史
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号
【電話番号】	03-3639-2700(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 山 田 勇 夫
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号
【電話番号】	03-3639-2700(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 上 田 和 弘
【縦覧に供する場所】	新日本空調株式会社 関東支店 (千葉県中央区中央一丁目11番1号) 新日本空調株式会社 横浜支店 (横浜市中区住吉町四丁目45番1号) 新日本空調株式会社 名古屋支店 (名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号) 新日本空調株式会社 大阪支店 (大阪市西区土佐堀二丁目2番4号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月
完成工事高 (百万円)	85, 553	92, 034	86, 508	97, 329	101, 202
経常利益 (百万円)	2, 457	2, 513	2, 567	3, 702	4, 217
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1, 322	1, 339	1, 442	2, 355	2, 934
包括利益 (百万円)	4, 169	3, 373	4, 830	777	2, 929
純資産額 (百万円)	31, 112	34, 034	38, 067	37, 396	39, 770
総資産額 (百万円)	80, 369	85, 002	83, 652	91, 622	87, 920
1 株当たり純資産額 (円)	1, 232. 48	1, 348. 30	1, 508. 21	1, 526. 06	1, 620. 61
1 株当たり当期純利益金額 (円)	52. 39	53. 05	57. 15	95. 47	119. 76
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	119. 57
自己資本比率 (%)	38. 7	40. 0	45. 5	40. 8	45. 2
自己資本利益率 (%)	4. 5	4. 1	4. 0	6. 2	7. 6
株価収益率 (倍)	10. 6	12. 3	17. 2	10. 4	11. 1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△799	1, 690	2, 776	△5, 862	2, 951
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1, 848	△1, 133	△3	1, 495	75
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2, 619	△483	△1, 566	4, 818	△3, 206
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	5, 790	6, 092	7, 507	7, 812	7, 449
従業員数 (名)	1, 298	1, 298	1, 351	1, 443	1, 531

(注) 1 完成工事高には、消費税及び地方消費税は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3 第44期、第45期、第46期及び第47期の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月
完成工事高 (百万円)	78,349	84,483	79,737	90,083	87,358
経常利益 (百万円)	2,023	2,179	2,392	3,307	3,684
当期純利益 (百万円)	1,047	1,143	1,502	2,092	2,653
資本金 (百万円)	5,158	5,158	5,158	5,158	5,158
発行済株式総数 (千株)	25,282	25,282	25,282	25,282	25,282
純資産額 (百万円)	29,396	31,730	35,527	34,775	37,098
総資産額 (百万円)	76,475	80,373	78,912	86,139	79,165
1株当たり純資産額 (円)	1,164.51	1,257.03	1,407.57	1,419.12	1,511.58
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	20.00 (7.50)	20.00 (7.50)	25.00 (10.00)	25.00 (10.00)	40.00 (10.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	41.50	45.30	59.52	84.80	108.29
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	108.12
自己資本比率 (%)	38.4	39.5	45.0	40.4	46.8
自己資本利益率 (%)	3.8	3.7	4.5	6.0	7.4
株価収益率 (倍)	13.4	14.3	16.5	11.7	12.3
配当性向 (%)	48.2	44.2	42.0	29.5	36.9
従業員数 (名)	976	967	996	1,021	1,033

(注) 1 完成工事高には、消費税及び地方消費税は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3 第44期、第45期、第46期及び第47期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【沿革】

昭和5年12月	三井物産株式会社の斡旋により、空気調和業界において世界のトップレベルにあった米国キャリア社の技術を導入し、わが国での空調機器の製造と空調設備の設計・施工を目的として、米国キャリア社と三機工業株式会社が共同出資(50:50)して東洋キャリア工業株式会社を設立(資本金20万円)、キャリア式空調装置の機器販売および工事の設計・施工を開始。
昭和44年10月	東洋キャリア工業株式会社は、空調工事の設計・施工部門(工事事業部門)と空調機器の製作・販売部門(製品事業部門)を別会社として各々専門化することが最善と判断し、同社は製品事業部門の会社としてそのまま事業を継続し、工事事業部門を分離独立させることとし、昭和44年10月1日現商号にて東京都中央区に当社を設立。資本金2億円。その後、昭和44年11月以降三井物産株式会社ほかの資本参加を得て現在に至る。同時に東京支店、大阪支店、名古屋支店を開設。
昭和48年5月	建設業法が従来の登録制より許可制に改正されたことに伴い、当社の事業内容を次のとおりとする。 空気調和、冷暖房、温湿度調整、換気給排水、衛生、防災設備、冷熱プラント、冷凍冷蔵、空気処理、公害防止・廃棄物処理などの環境保全設備、建築物、特殊建築物、工作物の設計、監理および工事請負ならびに関連装置の製作売買、保守、管理。
昭和49年4月	九州支店、中国支店、北海道支店設置。(出張所からの昇格)
昭和52年9月	東京都知事の1級建築士事務所登録。
昭和58年1月	工学センター開設。(原子力本部事務所、研究開発拠点として利用)
昭和59年5月	東北支店設置。(営業所からの昇格) 産業構造の変化に対応し、クリーンルーム装置などの新技術開発のため東京都江東区東雲に研究室を開設。(昭和62年1月、東京都江戸川区東葛西に移転)
昭和60年6月	事業内容に次の項目を追加。 屋内電気設備ならびにそれに付帯する設備に関する設計、監理ならびに工事請負。
昭和62年4月	サービス工事をR&Mセンターと改称し、改修・保守工事を強化。
平成元年4月	横浜支店設置。(営業所からの昇格)
平成2年11月	東京証券取引所市場第二部に上場。
平成3年4月	東関東支店設置。(営業所からの昇格)
平成3年6月	事業内容のうち「屋内電気設備ならびにそれに付帯する設備」を「電気および電気通信に関する設備」に変更。
平成3年10月	休眠会社の株式会社ケイメイ(平成4年5月に新日空サービス株式会社に社名変更)が空調設備の修理、メンテナンス等の事業を開始。(現・連結子会社)
平成5年9月	研究体制の強化および社員教育の充実を図るため、長野県茅野市に技術研究所(工学センターおよび東葛西の研究所を統合)・茅野研修所を開設。
平成5年12月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定。
平成6年6月	事業内容に「除塵・除菌」に関する設備の設計、監理ならびに工事請負を追加。
平成11年4月	北関東支店設置。(総合営業所からの昇格)
平成13年6月	北関東支店を東関東支店に統合し、関東支店に名称変更。
平成15年12月	新日本空調工程(上海)有限公司設立。(現・連結子会社)
平成17年4月	北関東支店設置。(関東支店からの分離)
平成18年6月	事業内容に次の項目を追加。 空調設備、給排水設備、電気設備等のエネルギー消費の効率向上、環境負荷低減等に関するシステムの設計、施工、運転、監視ならびにそれらのコンサルティング業務。
平成19年9月	本社を東京都中央区日本橋本石町から東京都中央区日本橋浜町に移転。
平成20年4月	北関東支店を関東支店に統合。
平成20年7月	SHIN NIPPON LANKA(PRIVATE)LIMITED(スリランカ)設立。(現・連結子会社)
平成22年12月	SHIN NIPPON AIRTECH(SINGAPORE)PTE. LTD.(シンガポール、平成28年2月にSNK(ASIA PACIFIC)PTE. LTD.に社名変更)設立。(現・連結子会社)
平成25年11月	希電科工貿(上海)有限公司設立。(現・連結子会社)
平成27年6月	事業内容のうち「建築物および特殊建築物ならびに工作物の設計、監理ならびに工事請負」を「建築および土木工事の設計、監理ならびに工事請負」に変更。
平成28年1月	上海希電科建築労務有限公司設立。(現・連結子会社)
平成28年10月	日宝工業株式会社の全株式を取得。(現・連結子会社)

3 【事業の内容】

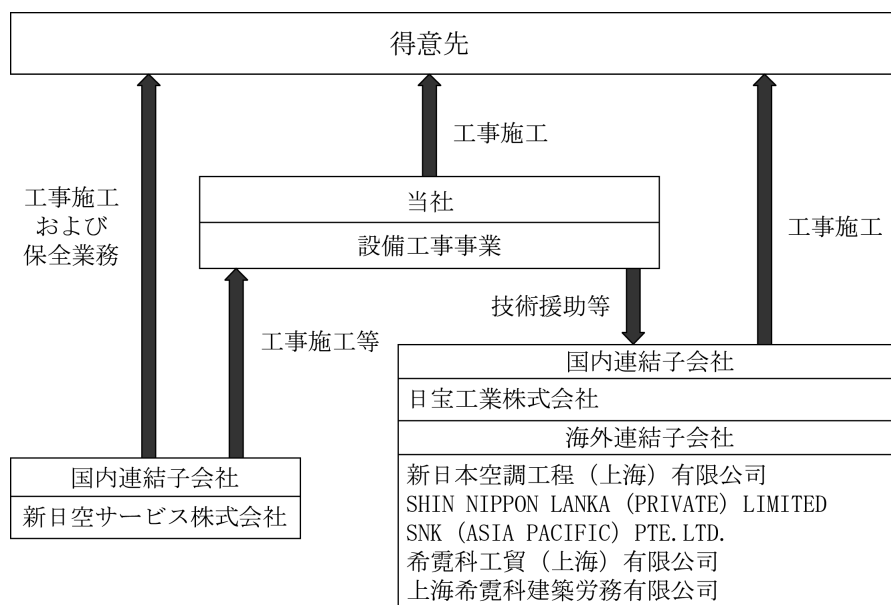
当社グループは、当社ならびに子会社7社で構成され、空気調和、冷暖房、換気、環境保全、温湿度調整、除塵、除菌、給排水、衛生設備、電気設備等の設計、監理ならびに工事請負を行い、幅広い分野の環境づくりに貢献しております。

当社グループの事業における位置づけおよびセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

設備工事業

当社グループは設備工事業を営んでおり、国内連結子会社である新日空サービス株式会社は施工協力および空調設備等の保全業務を行っており、日宝工業株式会社は電気設備工事、産業施設設備工事を施工しております。国外連結子会社である新日本空調工程（上海）有限公司は、主に日本からの進出企業の空調設備工事を施工しております。SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITEDおよびSNK (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. は、空調設備工事を施工しております。また、希寛科工貿（上海）有限公司は、連結子会社新日本空調工程（上海）有限公司の工事施工に伴う資機材納入を行っており、上海希寛科建築労務有限公司は、連結子会社新日本空調工程（上海）有限公司の工事施工に伴う施工協力を行っております。

事業系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) 新日空サービス㈱	東京都中央区	100	設備工事事業	100.00	—	当社の空調設備工事の施工 協力を行っております。 役員の兼務7名 転籍1名
(連結子会社) 日宝工業㈱	神奈川県横浜市	100	産業施設 設備工事事業	100.00	—	当社からの技術援助を受け ております。 役員の兼務4名
(連結子会社) 新日本空調工程 (上海)有限公司	中華人民共和国 上海市	375	設備工事事業	100.00	—	当社からの技術援助を受け ております。 役員の兼務8名
(連結子会社) SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED	Sri Lanka	263	設備工事事業	100.00	—	当社からの技術援助を受け ております。 役員の兼務7名
(連結子会社) SNK (ASIA PACIFIC) PTE. LTD.	Singapore	358	設備工事事業	100.00	—	当社からの技術援助を受け ております。 役員の兼務8名
(連結子会社) 希覓科工貿 (上海)有限公司 (注) 4	中華人民共和国 上海市	千中国元 850	建築設備機器販売	100.00 (100.00)	—	連結子会社新日本空調工程 (上海) 有限公司の工事施 工に伴う資機材納入を行っ ております。 役員の兼務2名
(連結子会社) 上海希覓科建築労務 有限公司 (注) 4	中華人民共和国 上海市	千中国元 2,000	建築設備工事事業	100.00 (100.00)	—	連結子会社新日本空調工程 (上海) 有限公司の工事施 工に伴う施工協力を行って おります。 役員の兼務2名

(注) 1 「主要な事業内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 上記子会社は特定子会社に該当していません。

3 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 「議決権の所有割合」欄の()内は、間接所有割合で内数であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
設備工事事業	1,531
合計	1,531

(注) 従業員数は就業人員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,033	43.8	17.7	8,461,202

(注) 1 従業員数は就業人員数であります。

2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

昭和44年11月1日に新日本空調株式会社職員組合として発足し、労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における日本の経済状況は、緩やかな回復基調のもと、企業業績には底堅さが見られました。設備投資は、製造業では緩慢なものの、インバウンド関連や都市部での大型再開発や宿泊施設など非製造業の建設投資がプラスに作用しましたが、個人消費は低迷が長期化しており、政府が目指す経済の好循環の実現には道半ばの状況が続いております。

当建設業界においては、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた施設やインフラ整備、首都圏の再開発など拡大傾向が続いている中、一方では、資機材の高騰、技能労働者・技術者不足、そしてそれらに伴う工期遅延が顕在化している状況で推移しました。

このような環境下、当社グループは、2014年度からスタートした中期経営計画「究極真価プラン2016」の最終年度の事業運営を行ってまいりました。この中期経営計画は「顧客ニーズに的確に応えたS N K品質の深化と進化で真価を極める」をキーワードとし、①顧客信頼度の究極真価、②技術の継承と先進技術の訴求展開、③コーポレートガバナンスの強化と機動力のある組織体制、という三つの基本課題を掲げております。

その最終年度である当連結会計年度におきましては、大きく変化した受注環境を注視しつつ、従来から取り組んでまいりました質と量、すなわち採算性とボリュームのバランスを見極めた活動を推進した結果、受注工事高は前期比5.0%増の1,114億3千5百万円、完成工事高は前期比4.0%増の1,012億2百万円となりました。また、手持工事量は大幅に増加し、グループ全体の次期繰越工事高は114億2千5百万円増の844億8千6百万円となりました。

利益面におきましては、受注環境が堅調に推移したことと、完成工事高の増加に加え、グループ全体での利益創出活動を行った結果、完成工事総利益は前期比10.5%増の108億9千9百万円、営業利益は前期比14.4%増の38億9千7百万円、経常利益は前期比13.9%増の42億1千7百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比24.6%増の29億3千4百万円となりました。

	受注工事高（百万円）			完成工事高（百万円）		
	平成28年3月期	平成29年3月期	前期比	平成28年3月期	平成29年3月期	前期比
設備工事業	106,139	111,435	5.0%	97,329	101,202	4.0%

「第2 事業の状況」に記載している金額には、消費税及び地方消費税は含まれておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、74億4千9百万円となり、前連結会計年度の78億1千2百万円と比較すると3億6千3百万円の減少（前期比4.7%減）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益42億7百万円、売上債権の減少額60億5千1百万円、仕入債務の減少額64億8千1百万円、未払消費税等の増加額10億8百万円、法人税等の支払額21億3千万円等により29億5千1百万円となり、前連結会計年度のマイナス58億6千2百万円と比較すると、88億1千4百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出2億8千6百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入9億4百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出2億3千9百万円等により7千5百万円となり、前連結会計年度の14億9千5百万円と比較すると、14億1千9百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減少額23億9千5百万円、配当金の支払額6億1千2百万円等によりマイナス32億6百万円となり、前連結会計年度の48億1千8百万円と比較すると、80億2千5百万円の減少となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループが営んでいる設備工事業では、生産実績を定義することが困難であり、請負形態をとっているため、セグメントごとの販売実績という定義は実態に即しておりません。

よって受注及び販売の状況については、「1 業績等の概要」において記載しております。

なお、参考のため提出会社個別の事業の状況は次のとおりであります。

① 受注工事高、完成工事高、繰越工事高

期別	前期繰越 工事高 (百万円)	当期受注 工事高 (百万円)	計 (百万円)	当期完成 工事高 (百万円)	次期繰越 工事高 (百万円)
第47期 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日	59,849	95,202	155,051	90,083	64,967
第48期 自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日	64,967	99,386	164,354	87,358	76,995

(注) 1 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額の増減があるものについては、当期受注工事高にその増減額を含めております。したがって、当期完成工事高にもかかる増減額が含まれております。

2 次期繰越工事高は（前期繰越工事高＋当期受注工事高－当期完成工事高）であります。

② 受注工事高の受注方法別比率

工事の受注方法は特命と競争に大別されます。

期別	特命(%)	競争(%)	計(%)
第47期 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日	45.0	55.0	100.0
第48期 自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日	37.7	62.3	100.0

(注) 百分比は請負金額比で示しております。

③ 完成工事高

期別	官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	合計 (百万円)
第47期 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日	9,993	80,090	90,083
第48期 自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日	11,837	75,521	87,358

(注) 1 完成工事のうち主なものは、次のとおりであります。

第47期請負金額10億円以上の主なもの

防衛省	岩国飛行場（H23）防錆格納庫（A）新設機械工事
㈱東芝	東芝本社ビル空調改修工事
㈱竹中工務店	JPタワー名古屋新築工事
清水建設㈱	東急プラザ銀座
㈱竹中工務店	ららぽーとエキスポシティ

第48期請負金額10億円以上の主なもの

㈱東芝	東芝四日市工場N220棟第3期機械設備工事
㈱竹中工務店	目黒駅前地区市街地再開発事業オフィス棟
みずほ信託銀行㈱	川崎東芝ビル空調設備改修工事
防衛省	岩国飛行場（H25）中学校新設機械工事
鹿島建設㈱	日比谷ダイビル リニューアル工事

- 2 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先およびその割合は次のとおりであります。
なお、第48期は100分の10以上に該当する相手先がないため、記載を省略しております。

第47期

(株)東芝 12,939百万円 14.4%

④ 手持工事高(平成29年3月31日現在)

官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	合計 (百万円)
11,867	65,127	76,995

(注) 手持工事のうち請負金額10億円以上の主なものは、次のとおりであります。

鹿島建設(株)	日本橋二丁目地区第一種市街地再開発事業 C・D街区空調設備工事	平成30年6月完成予定
(株)東芝	東芝四日市工場260棟第1期機械設備工事	平成30年2月完成予定
大成建設(株)	(仮称)豊洲二丁目駅前地区市街地 再開発事業2-1街区AC棟新築工事	平成32年3月完成予定
東京ガスエンジニアリング ソリューションズ(株)	田町第二スマートエネルギーセンター プラント設備工事	平成31年8月完成予定
東京空港冷暖房(株)	東京空港冷暖房(株)ボイラー更新等工事	平成33年7月完成予定

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「豊かな環境の創造」・「人々との信頼関係の尊重」・「社会への貢献」を経営の基本理念として掲げ、空気・水・熱に関する高度な技術を駆使し、地球環境に配慮した商業施設、産業施設、原子力施設等の室内環境を創造するとともに、顧客・株主・職員をはじめ全ての人々との信頼関係を大切に、豊かで潤いのある社会資本の形成発展に貢献する会社であることに努めております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、平成29年4月より3ヵ年中期経営計画「SNK Value Innovation 2020」をスタートさせました。この3ヵ年中期経営計画の基本方針を、『地球環境の保全と持続可能な地球社会の実現に貢献する環境ソリューションカンパニーとして、顧客や社会の要請に応え、2020年代への持続的成長と新たな企業価値の創造を目指す』と定め、その実施に対し、中長期的視野での経営体質強化および新事業展開等を図るための研究開発や設備投資等を勘案するとともに、今まで以上に収益性や効率性向上に努め、定量面では、最終年度となる平成32年3月期の連結経営目標として「完成工事高1,200億円、営業利益46億円、当期純利益34億円、ROE8.0%」を目指すこととします。

(3) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

新日本空調 中期経営計画「SNK Value Innovation 2020」(2017～2019年度)の基本課題

1) 顧客ロイヤルティの向上に向けた成長戦略の展開と推進

- ・顧客への貢献力向上に向け、当社の強みとする垂直ワンストップソリューションの展開とグループ企業や電気分野、防災分野を含む環境ソリューション全般とのコラボレーションによる水平ワンストップソリューションの拡充
- ・エネルギープラント分野における事業拡大
- ・海外分野における現法ネットワーク機能の強化推進と国内外ワンストップソリューションのシームレスな展開
- ・成長分野での設備投資・事業展開に向けた積極投資と体制強化

- 2) 安全・品質の確保と生産性向上に向けた設計施工技術と情報技術の融合
 - ・安全・品質トラブル“ゼロ”を目指した管理の推進
 - ・施工生産性向上を目指した省力化技術の開発
 - ・当社保有技術（可視化、エナジークエスト等）の進化と更なる展開
 - ・ZEB化等、省エネルギー対応や成長分野での事業深耕に資する技術開発の推進
 - 3) 透明性の高い経営基盤の構築と社会ニーズに沿った経営資源活用の健全化
 - ・コーポレート・ガバナンス体制の継続強化
 - ・当社グループ全体での企業統治体制の確立とCSR活動の強化推進
 - ・働き方改革に根差した労働生産性の向上
 - ・多様化に向けた当社グループ全体での人材育成制度の構築
- (4) 株式会社の支配に関する基本方針
- 上場会社である当社の株券等は、株主、投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社株券等に対する大量買付行為またはこれに類似する行為があった場合においても、一概にこれを否定するものではなく、大量買付行為に関する提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様の自由な意思により判断されるべきであると考えます。
- しかしながら、わが国の資本市場においては、対象となる企業の経営陣の賛同を得ずに、一方的に大量買付行為またはこれに類似する行為を強行する動きも見受けられないわけではなく、こうした大量買付行為の中には、対象会社の企業価値および会社の利益ひいては株主共同の利益に資さないものも想定されます。
- 当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値および会社の利益ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならないと考えております。したがって、企業価値および会社の利益ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大量買付行為またはこれに類似する行為を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。
- そのため、当社は、当社株式に対してこのような大量買付行為が行われた際には、大量買付行為の是非を株主の皆様適切に判断していただくために必要な情報収集と適時開示に努めるとともに、法令の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績・財政状態に影響を及ぼす可能性があるリスクに関しては、以下の項目が存在することを認識しております。

なお、下記項目の中には、将来の予想に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 業績の季節的変動

当社グループの完成工事高は、工事の完成時期が下半期に集中することにより、上半期と下半期との完成工事高に著しい相違があり、上半期と下半期の業績に季節的変動があります。

(2) 不採算工事の発生によるリスク

工事の施工段階で想定外の追加原価等により不採算工事が発生した場合、工事損失引当金の計上等により業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 資機材価格および労務費の変動

資機材価格および労務費が急激に高騰した場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 為替相場の変動

為替相場の大幅な変動等が生じた場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 海外事業リスク

当社グループは、アジアを中心とした海外での設備工事を手掛けておりますが、海外の予期し得ない法律・規制・租税制度の変更、テロ・戦争等の勃発、不利な政治的要因の発生等により業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 工事施工に係るリスク

設備工事において、人的・物的事故や災害が発生した場合、また、技術者不足等に伴う大幅な工期遅延が発生した場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 株式相場の下落

当社グループが保有している有価証券について、株式相場の下落により業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 賠償責任リスク

引渡し後の補修等、瑕疵担保責任等に関連して訴訟等が提起された場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 取引先の信用リスク

建設業における請負契約は、一つの取引における金額が大きく、工事完了時に代金を受領することが多くあります。そのため、工事代金受領以前に取引先が信用不安に陥った場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 退職給付債務について

当社グループの退職給付費用および退職給付債務は、割引率等の数値計算上の前提条件や年金資産の期待運用収益率に則って算出されております。そのため、実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、将来期間において認識される費用および計上される債務に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 法令等に係るリスク

当社グループの事業遂行は、建設業法、労働安全衛生法、独占禁止法等、各種法規類による規制を受けております。そのため、これらの法規類の改廃や新たな規制が行われた場合は、業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社は、企業行動憲章のひとつに「空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される技術とサービスの提供」を掲げています。

そして、これらの研究開発を具現化するにあたっては、技術開発研究所をはじめとする各事業部門などの全社組織に加え、有力な技術を持つ企業や大学等の社外パートナーと連携を図り、技術融合させながら展開しています。

当連結会計年度における研究開発費の総額は、396百万円であります。

なお、これらの研究開発成果や当社の保有技術を「見える化」させるショールーム『S N K e-Labo』を、当社本社、工学センター、技術開発研究所の3施設に開設し、営業展開中です。

(主な研究開発活動)

(1) 微粒子可視化技術を核とした「ビジュアルソリューション事業」の深耕

浜松ホトニクス㈱との協業体制のもと、微粒子可視化技術の適用範囲の拡大と技術の深耕に向けた活動を行っています。「微粒子可視化システム」の基本構成ラインナップの他、光源とカメラを一体とし、小型・軽量化を図った光膜式モニタリング方式、超小型出射ヘッドから300度までレーザーシートを広げることができる機能を持つ可視化用の新型光源「パラレルアイF」、紫外線LEDを光源とし、落下塵や付着粒子を検出するとともに、粒子から発生する蛍光色の違いを観察することで、粒子の種類を判別することが可能な「D ライト」を開発し、営業展開中です。

(2) 熱源最適化システムの開発

省エネ、省電力およびCO2排出削減に対応する「熱源最適制御システム Energy Quest® (エナジー・クエスト)」を日本橋室町東地区開発地区の室町東三井ビルディング（商業施設名：COREDO 室町）と田町駅東口北地区第一スマートエネルギーセンターで運用中です。また、複数の施設間の熱融通に向けた制御システムを開発中です。

(3) 既成杭を用いた採熱管の省力化設置工法の開発

地中熱利用に向け、二重らせん状の採熱管を予め既製コンクリート杭内部に設置し、杭挿入時に採熱管を伸長させながら杭施工と同時に採熱管を設置する省力化工法を、ジャパンパイル㈱と共同開発しました。従来方法に比べて採熱特性の向上も見込まれ、平成26年9月から採熱特性の詳細なデータ計測を実施中です。

(4) 地中熱・太陽熱・大気熱のハイブリッドシステムの開発

冷涼な気候の積極活用と寒冷地向け暖房システムの構築に向け、地中熱・太陽熱・大気熱の再生可能エネルギーを組み合わせた、ハイブリッドシステムの開発を進めており、現在実証中です。

(5) 脱臭とノロウイルスの不活化機能を併せ持つマスク洗浄システムを開発

福島第一原子力発電所の作業に従事する方の労働環境改善に向け、電解水を用いた脱臭とノロウイルスの不活化機能を併せ持つマスク洗浄システムを開発し、平成28年1月下旬より運用に供しています。また、ノロウイルスの除染と評価技術の開発を継続中です。

(6) 当社技術の実証結果に基づくZEB化要素技術の開発

当社技術の性能を検証する実証拠点「実証Labo」（工学センター）で、当社の独自技術である『アクティブスウィング®制御（室温変動制御）』、『CPCS（天井多孔板吹出）』、『P-Q master®』に加え、「再生可能エネルギー」、「熱負荷低減策」、「高効率設備」の導入により、年間46%の省エネルギーを達成しました。今後改善を重ね、さらなる「省エネ・創エネ」を達成し、「快適な室内環境」を兼ね備えた「ZEB Readyビル」(*)を目指すと共に、実証結果を踏まえたZEB化要素技術の開発に取り組んでいます。

(*)「ZEB Readyビル」：ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物

(7) ワイヤを用いた制震・制振補強「柔ワイヤ工法®」（特許出願中）を開発

地震時における吊り機器支持材の補強方法として、吊りボルトの共振による破断を抑制する、ワイヤを用いた制震・制振補強「柔ワイヤ工法®」（特許出願中）を開発し営業展開中です。また、更なる適用範囲の拡大に向けた開発に取り組んでいます。

(8) 一般建物用止水ダンパ「水断羽（ミズダンパ）」を開発

ゲリラ豪雨や洪水等の災害発生時に、一般建築物や地下施設等において、電気や空気等の動力源を一切必要とせず、ダクト内への水の浸入を検知し、自動的にダンパを閉止してダクトからの浸水被害を防止する止水ダンパ「水断羽（ミズダンパ）」を開発し営業展開中です。

(9) 厨房換気最適制御システムを開発

厨房換気設備における換気風量を最適に制御し、空調・換気エネルギーを大幅に削減できる省エネ制御システムを開発し、現在実証中です。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、この連結財務諸表の作成に当たり、一定の会計基準の範囲内で、見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されております。貸倒引当金、工事進行基準適用工事の予定利益率等に関する見積りおよび判断について、継続して評価し、過去の実績や状況に応じて見直しを行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、異なる場合があります。

(2) 経営成績の分析

(受注工事高及び完成工事高)

当連結会計年度は、大きく変化し始めた受注環境を注視しつつ、従来から取り組んでまいりました質と量、すなわち採算性とボリュームのバランスを見極めた活動を推進した結果、受注工事高は1,114億3千5百万円（前期比5.0%増）、完成工事高は1,012億2百万円（前期比4.0%増）となりました。

(完成工事総利益)

当連結会計年度における完成工事総利益は、受注環境が堅調に推移したことと、完成工事高の増加に加え、グループ全体での利益創出活動を行った結果、108億9千9百万円（前期比10.5%増）となりました。

(営業利益)

当連結会計年度における営業利益は、38億9千7百万円（前期比14.4%増）となりました。

(経常利益)

当連結会計年度における経常利益は、42億1千7百万円（前期比13.9%増）となりました。営業外損益の主な内容は、受取利息6千9百万円、受取配当金2億6千1百万円、支払利息3千4百万円、為替差損3千1百万円であります。

(特別損益)

当連結会計年度の特別損益の主な内容は、投資有価証券売却益1百万円、固定資産売却損8百万円であります。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

税金等調整前当期純利益は42億7百万円（前期比11.6%増）となり、税効果会計適用後の法人税等負担額は12億7千3百万円となりました。その結果、当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は29億3千4百万円（前期比24.6%増）となりました。

(3) 財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は605億5千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ45億5千4百万円減少しております。これは主に受取手形・完成工事未収入金が36億1千7百万円、電子記録債権が12億9千5百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は273億6千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億5千3百万円増加しております。これは主に日宝工業株式会社を連結子会社化したこと等により、有形固定資産及び無形固定資産が6億6百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は436億1千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ66億1千4百万円減少しております。これは主に支払手形・工事未払金が55億1千万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は45億3千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億3千8百万円増加しております。これは主に長期借入金が3億7千7百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は397億7千万円となり、前連結会計年度末に比べ23億7千4百万円増加しております。これは主に利益剰余金が23億2千1百万円増加したことによるものであります。

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行われておりません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物 構築物	機械運搬具 工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	合計	
原子力事業部 (横浜市磯子区)	設備工事事業	事務所	327	11	185 (621.56)	—	524	79
技術開発研究所 茅野研修所 (長野県茅野市)	—	研究研修 施設	1,569	48	87 (25,470.41)	0	1,705	13

(注) 帳簿価額には、消費税及び地方消費税は含まれておりません。

(2) 国内子会社

該当事項はありません。

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

設備の新設および除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	84,252,100
計	84,252,100

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,282,225	25,282,225	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	25,282,225	25,282,225	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法にもとづき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

①2016年度新株予約権（平成28年8月4日取締役会決議）

	事業年度末現在 (平成29年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成29年5月31日)
新株予約権の数(個)	704	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	70,400 (注)1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株あたり1	同左
新株予約権の行使期間	平成28年8月23日～ 平成58年8月22日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 961 (注)2 資本組入額 481 (注)3	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得に ついては、当社の取締役会の承 認を要するものとします。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する 事項	(注)5	同左

(注) 1 新株予約権の目的となる株式の数（以下、「付与株式数」という。）は1個当たり100株であります。
ただし、新株予約権を割り当てる日（以下、「割当日」という。）後、当社が普通株式につき、株式分割
（当社普通株式の無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）または株式併合を行う場合には、
新株予約権のうち、当該株式分割または株式併合の時点で行使されていない新株予約権について、付与株式
数を次の計算により調整します。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割または併合の比率

また、上記の他、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、当社は、当社の取締役
会において必要と認められる付与株式数の調整を行うことができます。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てます。

2 発行価格は、新株予約権の公正価格960円と新株予約権行使時の払込金額1円を合算しております。

3 (1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1
項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場
合は、これを切り上げるものとします。

- (2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とします。
- 4 (1) 新株予約権の割当てを受けた者（以下、「新株予約権者」という。）は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役、執行役員および従業員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日（10日目が休日に当たる場合には翌営業日）を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものとします。
- (2) 新株予約権者が死亡した場合、その者の相続人は、新株予約権を一括してのみ行使することができません。
- (3) その他の条件については、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによります。
- 5 当社が合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとします。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限りします。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とします。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記(注)1に準じて決定します。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とします。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とします。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
新株予約権の行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとします。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項
上記(注)3に準じて決定します。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとします。
- (8) 新株予約権の行使条件
上記(注)4に準じて決定します。
- (9) 新株予約権の取得条項
- ① 新株予約権者が権利行使をする前に、上記(注)4の定めまたは新株予約権割当契約の定めにより新株予約権を行使できなくなった場合、当社は当社の取締役会が別途定める日をもって当該新株予約権を無償で取得することができます。
 - ② 当社は、以下a、b、c、dまたはeの議案につき当社の株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は当社の取締役会で承認された場合）は、当社の取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができます。
 - a 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
 - b 当社が分割会社となる分割契約または分割計画承認の議案
 - c 当社が完全子会社となる株式交換契約または株式移転計画承認の議案
 - d 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
 - e 新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要することまたは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成12年12月26日 (注)	△747	25,282	—	5,158	—	6,887

(注) 自己株式の利益による消却

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満 株式の状況 （株）
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 （人）	—	26	21	187	61	1	3,645	3,941	—
所有株式数 （単元）	—	52,222	1,835	108,307	21,135	3	68,800	252,302	52,025
所有株式数 の割合（％）	—	20.70	0.72	42.93	8.38	0.00	27.27	100.00	—

(注) 1 株式会社証券保管振替機構名義の株式が「その他の法人」に3単元、「単元未満株式の状況」に80株それぞれ含まれております。

2 自己株式が「個人その他」に7,785単元、「単元未満株式の状況」に35株それぞれ含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
新日本空調協和会	東京都中央区日本橋浜町2-31-1	2,007	7.93
INTERTRUST TRUSTEES(CAYMAN)LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN-UP (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	190 ELGIN AVENUE, GEORGE TOWN, GRAND CAYMAN KY1-9005, CAYMAN ISLANDS (東京都港区港南2-15-1)	1,382	5.46
三井物産株式会社	東京都千代田区丸の内1-1-3	1,266	5.00
株式会社東芝	東京都港区芝浦1-1-1	1,255	4.96
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,006	3.98
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	1,000	3.95
新日本空調従業員持株会	東京都中央区日本橋浜町2-31-1	998	3.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	863	3.41
日本電設工業株式会社	東京都台東区池之端1-2-23	760	3.00
株式会社東京エネシス	東京都中央区日本橋茅場町1-3-1	571	2.26
計	—	11,112	43.95

(注) 1 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 356千株

3 上記のほか当社所有の自己株式が778千株(3.07%)あります。

4 平成28年4月18日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の訂正報告書において、株式会社ストラテジックキャピタルが平成27年11月12日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、当該報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社ストラテジックキャピタル	東京都渋谷区恵比寿西1-3-10	1,268	5.02

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 778,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,451,700	244,517	—
単元未満株式	普通株式 52,025	—	—
発行済株式総数	25,282,225	—	—
総株主の議決権	—	244,517	—

(注) 1 株式会社証券保管振替機構名義の株式が「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に300株(議決権3個)、「単元未満株式」欄の普通株式に80株それぞれ含まれております。

2 当社所有の自己株式が「単元未満株式」欄の普通株式に35株含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 新日本空調株式会社	東京都中央区日本橋 浜町2-31-1	778,500	—	778,500	3.0
計	—	778,500	—	778,500	3.0

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式による株式報酬型ストック・オプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法にもとづき、取締役会において新株予約権を発行する決議をしており、その内容は次のとおりであります。

決議年月日	平成28年8月4日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く) 9 当社執行役員 15
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

決議年月日	平成29年6月23日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く) 8 当社執行役員 17
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	52,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株あたり1
新株予約権の行使期間	平成29年7月11日～平成59年7月10日
新株予約権の行使の条件	「(2) 新株予約権等の状況」に記載の平成28年8月4日取締役会決議による条件と同じ
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとします。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載の平成28年8月4日取締役会決議による条件と同じ

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,271	1,553
当期間における取得自己株式	84	115

(注) 当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	778, 535	—	778, 619	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、業績向上に向けて企業体質の強化を図るとともに、株主の皆様へ安定的かつ継続的に成果の還元を行うことを経営の重要課題としており、配当については、当社グループの中長期的な成長に向けた事業展開、経営基盤の強化等を図りながら、連結配当性向30%以上を目標として安定的な配当を実施していくことを基本方針としております。なお、内部留保金については、競争力強化のための技術開発研究や事業領域拡大の原資として活用していく所存です。

上記基本方針のもと、当事業年度の剰余金の配当については、当期の業績ならびに財務状況等を勘案し、期末配当金は30円といたしました。これにより年間の配当金は、中間配当金10円と合わせ40円としております。

なお、当社は会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨定款に定めており、毎事業年度における配当は、中間配当および期末配当の年2回行うこととしております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成28年11月8日 取締役会決議	245	10
平成29年6月23日 定時株主総会決議	735	30

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	590	685	1,028	1,212	1,407
最低(円)	380	510	570	854	904

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	1,200	1,282	1,312	1,300	1,390	1,407
最低(円)	1,121	1,055	1,234	1,205	1,252	1,302

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性14名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(千株)
代表取締役社長		夏井博史	昭和25年11月4日	昭和54年4月 平成17年4月 平成18年4月 平成18年6月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年6月 平成23年4月 平成25年4月 平成25年6月 平成26年4月 平成26年6月	当社入社 当社執行役員首都圏事業本部リニューアル事業部長 当社上席執行役員首都圏事業本部リニューアル事業部長 当社取締役上席執行役員首都圏事業本部リニューアル事業部長 当社取締役上席執行役員事業推進統括本部長 当社常務取締役常務執行役員事業推進統括本部長 当社専務取締役専務執行役員事業推進統括本部長 当社専務取締役専務執行役員首都圏事業本部長 当社専務取締役専務執行役員営業本部長 当社取締役副社長営業本部長 当社取締役副社長 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	23
専務取締役	専務執行役員社長補佐	宇佐美威司	昭和26年11月5日	昭和49年4月 平成20年4月 平成22年4月 平成23年4月 平成23年6月 平成25年4月 平成25年6月 平成28年4月 平成29年6月	当社入社 当社執行役員都市施設・リニューアル事業本部リニューアル事業部長 当社上席執行役員都市施設・リニューアル事業本部リニューアル事業部長 当社上席執行役員首都圏事業本部副本部長兼リニューアル事業部長 当社取締役上席執行役員首都圏事業本部副本部長兼リニューアル事業部長 当社取締役上席執行役員首都圏事業本部長 当社常務取締役常務執行役員首都圏事業本部長 当社常務取締役常務執行役員特命事項担当 当社専務取締役専務執行役員社長補佐(現任)	(注)3	9
常務取締役	常務執行役員原子力担当	淵野聡志	昭和31年10月12日	昭和55年4月 平成13年2月 平成18年10月 平成24年4月 平成24年6月 平成27年6月	東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社 (株)東芝柏崎刈羽原子力作業所所長 同社原子力フィールド技術部長 当社入社 当社取締役上席執行役員原子力担当 当社常務取締役常務執行役員原子力担当(現任)	(注)3	10
常務取締役	常務執行役員経営企画本部長兼海外担当	赤松敬一	昭和34年1月13日	昭和58年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年4月 平成25年4月 平成26年6月 平成29年4月 平成29年6月	当社入社 当社執行役員経営企画本部副本部長 当社執行役員経営企画本部長 当社上席執行役員経営企画本部長 当社上席執行役員海外事業統括本部長 当社取締役上席執行役員海外事業統括本部長 当社取締役上席執行役員経営企画本部長兼海外担当 当社常務取締役常務執行役員経営企画本部長兼海外担当(現任)	(注)3	11

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(千株)
常務取締役	常務執行役員 首都圏事業 本部長	大 宮 祥 光	昭和30年 8 月12日	平成 4 年 3 月 平成23年 4 月 平成25年 4 月 平成26年 4 月 平成26年 6 月 平成28年 4 月 平成29年 6 月	当社入社 当社執行役員原子力事業部長 当社上席執行役員原子力事業部長 当社上席執行役員営業本部長 当社取締役上席執行役員営業本部長 当社取締役上席執行役員首都圏事業本部長 当社常務取締役常務執行役員首都圏事業本部長(現任)	(注) 3	9
取締役	上席執行役員 営業本部長	下 元 智 史	昭和35年 6 月28日	平成 2 年 1 月 平成20年 4 月 平成23年 4 月 平成24年 4 月 平成27年 6 月 平成28年 4 月	当社入社 当社執行役員都市施設・リニュー アル事業本部都市施設事業部長 当社執行役員首都圏事業本部副本 部長兼都市施設事業部長 当社上席執行役員首都圏事業本部 副本部長兼都市施設事業部長 当社取締役上席執行役員首都圏事 業本部副本部長兼都市施設事業部 長 当社取締役上席執行役員営業本部 長(現任)	(注) 3	5
取締役	上席執行役員 技術本部長	遠 藤 清 志	昭和33年 1 月13日	昭和57年 4 月 平成23年 4 月 平成24年 1 月 平成25年 4 月 平成26年 4 月 平成27年 6 月	当社入社 当社首都圏事業本部都市施設事業 部副事業部長 当社首都圏事業本部副本部長兼都 市施設事業部副事業部長兼購買セ ンター長 当社首都圏事業本部副本部長兼購 買センター長 当社執行役員技術本部長 当社取締役上席執行役員技術本部 長(現任)	(注) 3	7
取締役	上席執行役員 管理本部長	山 田 勇 夫	昭和28年 7 月26日	昭和52年 4 月 平成 3 年 4 月 平成16年 5 月 平成17年 4 月 平成22年 6 月 平成22年 6 月 平成28年 6 月	日機装機入社 当社入社 当社管理本部総務人事部長 当社管理本部総務部長 当社管理本部 当社常勤監査役 当社取締役上席執行役員管理本部 長(現任)	(注) 3	9
取締役		森 信 茂 樹	昭和25年 1 月 5 日	昭和48年 4 月 平成 9 年 7 月 平成10年 7 月 平成15年 1 月 平成16年 7 月 平成17年 7 月 平成19年 1 月 平成19年 4 月 平成21年10月 平成27年 6 月	大蔵省(現財務省)入省 主税局総務課長 大阪大学法学研究科教授 東京税関長 プリンストン大学客員研究員・講 師兼コロンビアロースクール 財務省財務総合政策研究所長 財務省財務総合政策研究所特別研 究官(現任) 中央大学法科大学院教授(現任) 公益財団法人東京財団上席研究員 (現任) 一般社団法人ジャパン・タック ス・インスティテュート理事長 (現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(千株)
取締役		水 野 靖 史	昭和46年1月24日	平成8年4月 平成16年10月 平成29年6月	弁護士登録 遠藤・萬場総合法律事務所(現フェアネス法律事務所)所属 フェアネス法律事務所パートナー(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	1
常勤監査役		壺 岐 尾 透	昭和29年10月6日	昭和52年4月 平成17年12月 平成20年4月 平成21年6月 平成23年7月 平成25年6月 平成26年6月	三井物産㈱入社 同社鉄鋼製品本部線材特殊鋼部長 三井物産スチール㈱常務執行役員 ステンレス特殊鋼部門長 同社取締役常務執行役員ステンレス特殊鋼部門長 三井物産㈱内部監査部第二監査室検査役 同社内部監査部第一監査室長検査役 当社常勤監査役(現任)	(注)4	3
常勤監査役		楠 田 守 雄	昭和27年2月17日	昭和49年4月 平成14年5月 平成17年4月 平成19年7月 平成21年4月 平成22年6月 平成23年6月 平成28年6月	当社入社 当社経理部長 当社管理本部副本部長 当社内部統制プロジェクト室長 当社執行役員内部統制部長 当社取締役上席執行役員管理本部副本部長兼総務部長 当社取締役上席執行役員管理本部 長 当社常勤監査役(現任)	(注)5	9
監査役		鶴 野 隆 一	昭和21年12月13日	昭和45年10月 昭和50年10月 昭和60年7月 平成7年6月 平成23年12月 平成24年2月 平成25年6月	等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所 公認会計士登録 等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)社員 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)代表社員 有限責任監査法人トーマツ退所 鶴野公認会計士事務所開設(現任) 当社監査役(現任)	(注)6	1
監査役		城 之 尾 辰 美	昭和15年4月26日	昭和34年4月 昭和63年7月 平成2年7月 平成7年7月 平成8年7月 平成9年7月 平成10年8月 平成18年6月 平成19年6月 平成20年6月 平成27年6月	熊本国税局採用 東京国税局西新井税務署副署長 国税庁長官官房(国税庁監察官) 東京国税局調査第一部調査管理課長 同局調査第一部次長 同局調査第三部長 税理士登録 城之尾税理士事務所開設(現任) ㈱三栄コーポレーション監査役 テレビ東京ブロードバンド㈱(現㈱テレビ東京ホールディングス)監査役 ニチアス㈱監査役(現任) 当社監査役(現任)	(注)7	1
計							106

- (注) 1 取締役 森信茂樹、水野靖史の両氏は、社外取締役であります。
- 2 常勤監査役 壺岐尾透氏および監査役 鶴野隆一、城之尾辰美の両氏は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 常勤監査役 壺岐尾透氏の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

- 5 常勤監査役 楠田守雄氏の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役 鶴野隆一氏の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役 城之尾辰美氏の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 当社は、経営改革の一環として、従来取締役が担ってきた経営責任機能と執行責任機能を分離し、明確化することによって、意思決定の迅速化と、取締役会の経営監視機能の強化を図るため、平成14年4月1日より執行役員制度を導入しております。
平成29年6月26日現在における執行役員は28名であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は企業理念の中で顧客・株主・職員・協力会社をはじめ、全ての人々との信頼関係を大切に、「良き企業市民」として、社会の発展に貢献するとともに、公正、透明、自由な競争を基本に開かれた企業活動を実践して行くことを定めており、コンプライアンスの徹底のための施策を通じて、企業価値の向上に努めていくことを基本方針としております。

② 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

a 取締役会

- ・取締役会は、社外取締役2名を含む10名の体制となっております。実質的な討議を可能とする人数にとどめ、法令で定められた事項や経営上の重要な事項を審議・決定するとともに、取締役の職務執行が効率性を含め適正に行われているかを監督しております。
- ・当社は、当事業年度に取締役会を12回開催いたしました。取締役会に諮るべき事項および重要な業務執行については、経営会議(当事業年度は25回開催)において協議し、迅速かつ適切な運営を図っております。

b 指名委員会・報酬委員会

- ・当社は、平成29年6月23日開催の取締役会において、取締役候補者および監査役候補者を審議し、取締役会に諮問する指名委員会と取締役の報酬に関する事項を審議・決定する報酬委員会の設置を決議いたしました。各委員会は社外取締役および社外監査役を含む3名をもって構成し、経営の透明性を高めてまいります。

c 監査役会

- ・当社は、監査役会制度を採用しております。監査役会(当事業年度は6回開催)は、社外監査役3名を含む4名体制であり、公正な監査が実施できる体制としております。
- ・監査役は取締役会および経営会議等重要な会議に出席するほか、定期的に監査役連絡会(当事業年度は6回開催)を開催し、監査機能を充実させ、実効性を高めるように努めております。

d 執行役員制度

- ・当社は、平成14年4月から執行役員制度を導入し、経営責任の明確化および経営判断ならびに業務執行の迅速化を図っております。

現在の体制が、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するうえで最適であると判断し、本体制を採用しております。

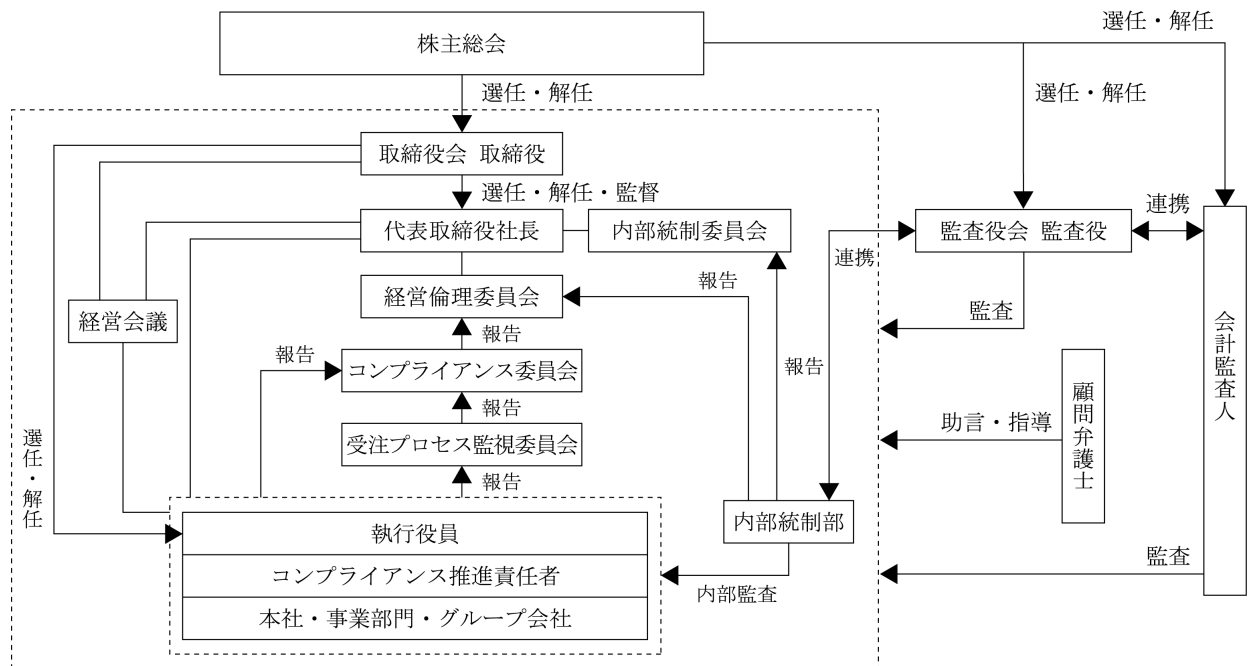
③ 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況

a 取締役および使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- ・当社は、法令、社会規範、倫理などの順守(コンプライアンス)を業務遂行上の最重要課題のひとつとして位置づけ、その達成を目的として企業行動憲章を制定し、当社グループ内の役職員に順守を求めています。
- ・ガバナンスの強化を図るため、代表取締役社長を委員長とし社外有識者を含めた経営倫理委員会を設置し、経営上の観点から事業全般についてのコンプライアンス上の課題検討を行い、全てのリスクに対処し、コンプライアンス上の問題が生じた場合は速やかに是正改善を図っております。
- ・コンプライアンス統括責任者としてC C O (チーフ・コンプライアンス・オフィサー)を任命し、C C Oを委員長とするコンプライアンス委員会を経営倫理委員会の下部組織として設置し、コンプライアンス委員会は、コンプライアンスに関する事項を審議し、経営倫理委員会に報告を行うこととしております。

- ・独占禁止法違反の未然防止を図るため、社長が任命した者を委員長とした受注プロセス監視委員会をコンプライアンス委員会の下部組織として設置しております。受注プロセス監視委員会は、入札案件について入札前の段階において不適切な営業活動の有無をチェック、監視するとともに、同業他社等との接触状況について確認し、コンプライアンス委員会に報告を行うこととしております。
 - ・コンプライアンスに関する報告、相談ルートとして、社内と社外有識者による社外に、それぞれ専用の相談窓口（ヘルプライン）を開設し、コンプライアンス違反の未然防止に努めております。なお、相談者の希望により匿名性を保障するとともに、相談者に不利益にならない体制を確保しております。そのほか、独占禁止法に精通する社外有識者を窓口とした独占禁止法相談窓口を設置し、日々の営業上の疑問点について相談することにより、独占禁止法違反の未然防止に努めております。役職員に対しては、定期的にコンプライアンス研修を実施するとともに、基本は職場におけるコンプライアンスの実践にあるという方針から、各部門にコンプライアンス推進責任者を配置し、コンプライアンスの徹底を図っております。
 - ・業務執行における法令、社内規程等の順守状況については、内部監査を定期的実施しており、コンプライアンスの違反者に対しては、社内規程にもとづき厳正に対処することとしております。
- b 取締役会の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- ・業務文書管理規程に定める「業務文書の管理ならびに保存期間」に従って文書または電磁的記録により関連資料とともに保存、管理しております。
- c 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・事業等の様々なリスクに対処するため、各部門と緊密に連携を図り、情報収集、リスクの分析、対策の実施ならびに社内規程を整備することにより、リスク管理体制を構築しております。
 - ・緊急事態発生時には危機管理規程にもとづき、損害、損失等を抑制するための具体策を迅速に決定、実行する組織として、社長または社長が任命する者を本部長とする緊急対策本部を設置し、適切に対応することとしております。
 - ・各部門のリスク管理の状況等の内部監査を定期的実施しております。
- d 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
- ・グループ会社に対しては、関係会社管理規程等を通じ、適切な管理を行っております。
 - ・グループ会社の経営状況を把握し、適切な連結経営体制を構築・推進するため、当社の企業行動憲章にもとづき、グループ会社各社において行動基準を策定し、業務を適正に行うための行動の指針とするよう指導しております。
 - ・グループ会社の経営者には、適切な水準の社内規程の整備、運用ならびに重要事項についての報告を求め、役員の選任、剰余金の処分などの決議事項について、当社は出資者として適切な意思決定を行っております。
 - ・グループ会社においては、当社に準じたヘルプラインを開設することを求めるとともに、コンプライアンス研修および当社内部統制部による内部監査を定期的実施することにより、コンプライアンス上の課題、問題の把握に努め、コンプライアンスの徹底を図っております。
- e 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備
- ・当社グループは、反社会的勢力や団体との関係遮断を断固たる決意で臨み、役職員に対する教育・啓発活動を通じて周知、徹底を図るとともに、事案発生時には、社内の関係部門間の情報共有および関係行政機関や法律の専門家と緊密に連絡を取ることで、組織全体として速やかに対処できる体制を構築しております。

業務執行、経営の監視の仕組みおよび内部統制システムの模式図は次のとおりであります。



④ 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役および監査役との間で、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約にもとづく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。

⑤ 内部監査および監査役監査

a 取締役および使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- 内部監査実施部門である内部統制部は8名で構成され、社長直轄となっております。監査役との業務連絡会を含め、十分な連携を図りながら、当社各部門および当社グループ会社に対し、監査計画にもとづき、定期的に業務執行状況についての内部監査を実施し、経営方針に対する運営管理状況と諸基準に対する適合性を評価し、監査結果を社長に報告、監査役会および会計監査人に提出しております。
- 内部監査等により不適切な業務処理等が判明した場合、コンプライアンス委員会主催によるコンプライアンス研修等により、関係部門と連携し、当社グループ内に再発防止の指導をしております。また、コンプライアンスに関する報告・相談制度であるヘルプライン等により判明した不適切な業務処理等の再発防止を図るとともに、内部監査等で重点的に監査を実施しております。

b 監査役監査

- 監査役会が定めた監査の方針、業務の分担などに従い、取締役等に報告を求め、重要な書類を閲覧し、各部門や当社グループ会社へ往査のうえ業務および財産の状況を調査しており、公正かつ的確に監査を実施しております。なお、各監査役は、監査役会および監査役連絡会などを通して、意見交換を密にしながら監査の実効性向上に努めております。また、会計監査人から監査役へ監査の総合的かつ詳細な報告を受け、連携を強めております。
- 監査役は、内部統制部と緊密な連携を保っており、内部統制部による監査結果を監査役監査に活用しております。
- 監査役は、監査役監査の監査結果にもとづき監査報告書を作成し、社長に提出しております。また、監査役は、会計監査の監査計画および監査実施状況を把握し、監査結果の報告を求めるほか、必要に応じ会計監査人の監査に立ち会うこととしております。各監査がこのように連携することにより、経営の健全性の維持・強化を図っております。

⑥ 会計監査

当社の会計監査については、会計監査人より、独立の立場から会計監査を受けております。監査役と会計監査人は、日頃から監査方法等に関する意見交換を行い緊密な関係を保っているほか、四半期および期末には会計監査人から監査役へ監査の総合的かつ詳細な報告を受け、連携を強めております。

⑦ 社外取締役および社外監査役

a 社外取締役

- ・社外取締役2名は、経営陣から独立した立場で、取締役の職務が効率性を含め適正に行われているかを監督する役割を担っていただいております。
- ・社外取締役は、いずれも専門的または幅広い知見と豊富な経験を有し、適任であると判断しており、また当社と各氏との間に、いずれも利害関係はありません。

b 社外監査役

- ・当社の社外監査役は3名で、取締役会のほか、監査役会および監査役連絡会その他重要な会議に出席し、業務執行状況の報告を受け、内部監査部、会計監査人と連携して取締役の職務の実行状況を監査することにおいて、期待される役割を担っていただいております。
- ・社外監査役は、いずれも専門的または幅広い知見と豊富な経験を有し、適任であると判断しております。
- ・壺岐尾透氏は、当社の株主であり取引先でもある三井物産株式会社に勤務しておりましたが、同社との取引額は僅少であります。
- ・鶴野隆一氏は、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツに勤務しておりましたが、当社が支払う監査報酬等の額は同監査法人の規模に対して小額であります。
- ・城之尾辰美氏と当社との間に、利害関係はありません。

c 独立性の基準または方針の内容

- ・当社において、社外取締役および社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針は定めておりませんが、選任にあたっては、株式会社東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

⑧ 役員の報酬等

a 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役（社外取締役を除く）	291	161	26	104	10
監査役（社外監査役を除く）	20	20	—	—	2
社外役員	35	35	—	—	5

(注) 1 報酬限度額は、株主総会の決議（平成27年6月19日開催定時株主総会）により、取締役 年額450百万円以内（うち社外取締役分は年額30百万円以内）、監査役 年額72百万円以内と決議いただいております。また、当該報酬とは別枠にて、株主総会の決議（平成28年6月22日開催定時株主総会）により、取締役（社外取締役を除く）に対する株式報酬型ストック・オプションによる報酬額を年額50百万円以内と決議いただいております。

2 取締役（社外取締役を除く）の基本報酬には、退任した取締役1名分を含み、使用人兼務取締役の使用人としての報酬は含んでおりません。

3 監査役（社外監査役を除く）の基本報酬には、退任した監査役1名分を含んでおります。

4 社外役員の基本報酬には、退任した社外取締役1名分を含んでおります。

b 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

c 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

d 役員の報酬等の決定に関する方針

取締役ならびに監査役の報酬枠は、株主総会の決議によっており、各取締役ならびに各監査役の報酬の額はこれを限度額として決定しております。

取締役の報酬は、役職に応じた固定部分と業績に応じた業績部分に分けております。固定部分については、役員内規に定める基準に従い決定しております。業績部分につきましては、あらかじめ設定した目標の達成度に応じて決定しております。なお、経営の透明性を高めるため、平成29年6月23日開催の取締役会において、報酬委員会の設置を決議いたしました。また、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、中長期的な業績向上および企業価値向上への貢献意欲を高めることを目的として、社外取締役を除く取締役を対象とした自社株報酬（株式報酬型ストック・オプション）制度を導入しております。

監査役の報酬は、上記限度額の範囲で、監査役の協議で各人への配分を決定しております。

⑨ 株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数	63銘柄
貸借対照表計上額の合計額	19,016百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
オリンパス(株)	720,361	3,115	取引関係の維持・発展等を目的
三井不動産(株)	1,000,557	2,776	取引関係の維持・発展等を目的
日本電設工業(株)	1,000,000	2,204	取引関係の維持・発展等を目的
東海旅客鉄道(株)	59,000	1,178	取引関係の維持・発展等を目的
(株)帝国ホテル	370,000	891	取引関係の維持・発展等を目的
(株)ヤクルト本社	137,978	744	取引関係の維持・発展等を目的
久光製薬(株)	138,000	693	取引関係の維持・発展等を目的
住友不動産(株)	205,000	671	取引関係の維持・発展等を目的
(株)東京エネシス	600,000	566	取引関係の維持・発展等を目的
(株)タクマ	344,000	356	取引関係の維持・発展等を目的
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,016,136	348	取引関係の維持・発展等を目的
西日本旅客鉄道(株)	45,000	309	取引関係の維持・発展等を目的
ダイビル(株)	308,727	301	取引関係の維持・発展等を目的
日本フェンオール(株)	228,800	281	取引関係の維持・発展等を目的
(株)ツムラ	100,000	278	取引関係の維持・発展等を目的
太平電業(株)	269,000	277	取引関係の維持・発展等を目的
日本ドライケミカル(株)	96,000	209	取引関係の維持・発展等を目的
日本パーカライジング(株)	176,000	177	取引関係の維持・発展等を目的
ゼリア新薬工業(株)	100,100	147	取引関係の維持・発展等を目的
平和不動産(株)	106,200	146	取引関係の維持・発展等を目的
日機装(株)	171,000	142	取引関係の維持・発展等を目的
(株)日阪製作所	172,000	141	取引関係の維持・発展等を目的
(株)三井住友フィナンシャルグループ	38,683	136	取引関係の維持・発展等を目的
NOK(株)	70,200	134	取引関係の維持・発展等を目的
第一生命保険(株)	88,500	124	取引関係の維持・発展等を目的
生化学工業(株)	79,600	120	取引関係の維持・発展等を目的
前澤化成工業(株)	110,300	113	取引関係の維持・発展等を目的
野村不動産ホールディングス(株)	50,000	105	取引関係の維持・発展等を目的
アジア航測(株)	213,000	102	取引関係の維持・発展等を目的
名糖産業(株)	75,000	99	取引関係の維持・発展等を目的
コスモバイオ(株)	89,600	94	取引関係の維持・発展等を目的
京阪電気鉄道(株)	115,500	91	取引関係の維持・発展等を目的
アズビル(株)	30,000	85	取引関係の維持・発展等を目的
日本化学産業(株)	100,000	78	取引関係の維持・発展等を目的
ANAホールディングス(株)	215,408	70	取引関係の維持・発展等を目的
アジアパイルホールディングス(株)	170,300	68	取引関係の維持・発展等を目的
空港施設(株)	128,108	64	取引関係の維持・発展等を目的

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
オリンパス(株)	720,361	3,029	取引関係の維持・発展等を目的
三井不動産(株)	1,000,557	2,505	取引関係の維持・発展等を目的
日本電設工業(株)	1,000,000	2,013	取引関係の維持・発展等を目的
東海旅客鉄道(株)	59,000	1,089	取引関係の維持・発展等を目的
久光製薬(株)	138,000	859	取引関係の維持・発展等を目的
(株)ヤクルト本社	138,512	846	取引関係の維持・発展等を目的
(株)帝国ホテル	370,000	780	取引関係の維持・発展等を目的
住友不動産(株)	205,000	619	取引関係の維持・発展等を目的
(株)東京エネシス	600,000	589	取引関係の維持・発展等を目的
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	101,613	408	取引関係の維持・発展等を目的
(株)タクマ	344,000	363	取引関係の維持・発展等を目的
(株)ソムラ	100,000	346	取引関係の維持・発展等を目的
西日本旅客鉄道(株)	45,000	336	取引関係の維持・発展等を目的
日本フェンオール(株)	228,800	324	取引関係の維持・発展等を目的
ダイビル(株)	308,727	316	取引関係の維持・発展等を目的
太平電業(株)	269,000	302	取引関係の維持・発展等を目的
東プレ(株)	97,900	289	取引関係の維持・発展等を目的
日本パーカライジング(株)	176,000	243	取引関係の維持・発展等を目的
日本ドライケミカル(株)	96,000	231	取引関係の維持・発展等を目的
日機装(株)	171,000	209	取引関係の維持・発展等を目的
第一生命ホールディングス(株)	88,500	192	取引関係の維持・発展等を目的
N O K(株)	70,200	184	取引関係の維持・発展等を目的
ゼリア新薬工業(株)	100,100	179	取引関係の維持・発展等を目的
平和不動産(株)	106,200	168	取引関係の維持・発展等を目的
(株)三井住友フィナンシャルグループ	38,683	165	取引関係の維持・発展等を目的
(株)日阪製作所	172,000	164	取引関係の維持・発展等を目的
生化学工業(株)	79,600	147	取引関係の維持・発展等を目的
前澤化成工業(株)	110,300	131	取引関係の維持・発展等を目的
日本化学産業(株)	100,000	123	取引関係の維持・発展等を目的
アズビル(株)	30,000	112	取引関係の維持・発展等を目的
アジア航測(株)	213,000	110	取引関係の維持・発展等を目的
名糖産業(株)	75,000	110	取引関係の維持・発展等を目的
アジアパイルホールディングス(株)	170,300	110	取引関係の維持・発展等を目的
コスモバイオ(株)	89,600	102	取引関係の維持・発展等を目的
野村不動産ホールディングス(株)	50,000	94	取引関係の維持・発展等を目的
京阪ホールディングス(株)	115,500	81	取引関係の維持・発展等を目的
A N Aホールディングス(株)	215,408	74	取引関係の維持・発展等を目的
空港施設(株)	128,108	72	取引関係の維持・発展等を目的
三井住友建設(株)	416,100	52	取引関係の維持・発展等を目的

- ハ 保有目的が純投資目的である投資株式
現在、純投資目的で保有している株式はございません。

⑩ 会計監査人

会計監査人につきましては、当社は有限責任監査法人トーマツと監査契約を結び会計監査を受けております。
当社の会計監査業務を執行した公認会計士および補助者は以下のとおりであります。

指定有限責任社員・業務執行社員 城戸 和弘

指定有限責任社員・業務執行社員 水野 博嗣

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 4名

その他 7名

⑪ 取締役の定数

当社の取締役は、12名以内とする旨を定款に定めております。

⑫ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑬ 取締役および監査役の責任免除

当社は、取締役および監査役が期待された役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の損害賠償責任について、取締役会の決議によって法令の定める範囲内で責任を免除することができる旨、ならびに当社と業務執行を行わない取締役および監査役との間で責任限定契約を締結できる旨を定款に定めております。

⑭ 取締役の選任の決議要件

当社は、経済環境の変化に対応して、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定にもとづき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得する旨を定款に定めております。

⑮ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

⑯ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の要件を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを可能にするため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	53	0	56	6
連結子会社	—	—	—	—
計	53	0	56	6

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度および当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度および当連結会計年度

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）として合意された
手続業務等を委託し対価を支払っております。

④ 【監査報酬の決定方針】

特記事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)第2条の規定に基づき、同規則および「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、企業会計基準委員会等の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	※1 8,210	※1 7,826
受取手形・完成工事未収入金	50,782	47,164
電子記録債権	2,995	1,700
有価証券	404	501
未成工事支出金	※2 721	※2 1,096
その他のたな卸資産	55	50
繰延税金資産	1,385	1,475
その他	822	980
貸倒引当金	△267	△239
流動資産合計	65,111	60,556
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	6,459	※1 6,971
機械、運搬具及び工具器具備品	1,047	1,064
土地	584	※1 920
リース資産	78	82
減価償却累計額	△5,100	△5,532
有形固定資産合計	3,069	3,506
無形固定資産	275	444
投資その他の資産		
投資有価証券	20,160	※1 20,121
繰延税金資産	81	120
退職給付に係る資産	-	78
その他	3,055	3,187
貸倒引当金	△131	△95
投資その他の資産合計	23,166	23,413
固定資産合計	26,510	27,363
資産合計	91,622	87,920

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成29年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	33,809	28,299
短期借入金	9,760	7,602
1年内返済予定の長期借入金	-	232
リース債務	32	38
未払法人税等	1,353	533
未成工事受入金	1,433	1,099
役員賞与引当金	91	105
完成工事補償引当金	82	87
工事損失引当金	※2 959	※2 1,036
その他	2,705	4,578
流動負債合計	50,227	43,613
固定負債		
長期借入金	400	777
リース債務	56	47
繰延税金負債	2,723	2,709
訴訟損失引当金	-	95
退職給付に係る負債	775	897
その他	43	10
固定負債合計	3,998	4,536
負債合計	54,226	48,150
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,158	5,158
資本剰余金	6,887	6,887
利益剰余金	18,964	21,286
自己株式	△852	△854
株主資本合計	30,158	32,478
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,708	6,959
為替換算調整勘定	461	316
退職給付に係る調整累計額	68	△43
その他の包括利益累計額合計	7,237	7,232
新株予約権	-	59
純資産合計	37,396	39,770
負債純資産合計	91,622	87,920

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
完成工事高	97,329	101,202
完成工事原価	※1, ※2 87,468	※1, ※2 90,302
完成工事総利益	9,860	10,899
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び手当	2,899	3,103
役員賞与引当金繰入額	91	105
退職給付費用	152	150
貸倒引当金繰入額	△48	△28
地代家賃	619	617
減価償却費	163	224
のれん償却額	-	76
その他	2,577	2,753
販売費及び一般管理費合計	※2 6,455	※2 7,002
営業利益	3,405	3,897
営業外収益		
受取利息	118	69
受取配当金	234	261
その他	40	67
営業外収益合計	393	398
営業外費用		
支払利息	37	34
為替差損	46	31
その他	12	12
営業外費用合計	96	78
経常利益	3,702	4,217
特別利益		
固定資産売却益	4	-
投資有価証券売却益	138	1
投資有価証券償還益	54	-
特別利益合計	198	1
特別損失		
固定資産売却損	※3 3	※3 8
固定資産除却損	※4 0	※4 1
投資有価証券評価損	95	0
減損損失	28	-
特別損失合計	129	10
税金等調整前当期純利益	3,771	4,207
法人税、住民税及び事業税	1,611	1,254
法人税等調整額	△195	18
法人税等合計	1,415	1,273
当期純利益	2,355	2,934
親会社株主に帰属する当期純利益	2,355	2,934

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
当期純利益	2,355	2,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,396	251
為替換算調整勘定	△147	△144
退職給付に係る調整額	△34	△111
その他の包括利益合計	※ △1,578	※ △5
包括利益	777	2,929
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	777	2,929

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,158	6,887	17,232	△26	29,251
当期変動額					
剰余金の配当			△623		△623
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,355		2,355
自己株式の取得				△825	△825
自己株式の処分					-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,732	△825	906
当期末残高	5,158	6,887	18,964	△852	30,158

	その他の包括利益累計額				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	8,104	609	102	8,815	-	38,067
当期変動額						
剰余金の配当						△623
親会社株主に帰属する 当期純利益						2,355
自己株式の取得						△825
自己株式の処分						-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△1,396	△147	△34	△1,578	-	△1,578
当期変動額合計	△1,396	△147	△34	△1,578	-	△671
当期末残高	6,708	461	68	7,237	-	37,396

当連結会計年度(自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,158	6,887	18,964	△852	30,158
当期変動額					
剰余金の配当			△612		△612
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,934		2,934
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の処分		△0			△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	△0	2,321	△1	2,320
当期末残高	5,158	6,887	21,286	△854	32,478

	その他の包括利益累計額				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	6,708	461	68	7,237	-	37,396
当期変動額						
剰余金の配当						△612
親会社株主に帰属する 当期純利益						2,934
自己株式の取得						△1
自己株式の処分						△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	251	△144	△111	△5	59	54
当期変動額合計	251	△144	△111	△5	59	2,374
当期末残高	6,959	316	△43	7,232	59	39,770

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月 31 日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月 31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,771	4,207
減価償却費	356	338
のれん償却額	-	76
減損損失	28	-
固定資産売却損益 (△は益)	△0	8
固定資産除却損	0	1
投資有価証券売却損益 (△は益)	△138	△1
投資有価証券償還損益 (△は益)	△54	-
投資有価証券評価損益 (△は益)	95	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△135	△69
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	27	14
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△74	△118
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△85	76
受取利息及び受取配当金	△353	△331
支払利息	37	34
為替差損益 (△は益)	20	18
売上債権の増減額 (△は増加)	△12,399	6,051
たな卸資産の増減額 (△は増加)	52	18
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,360	△6,481
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	552	△419
未払消費税等の増減額 (△は減少)	45	1,008
未収消費税等の増減額 (△は増加)	611	274
その他	621	65
小計	△5,659	4,775
利息及び配当金の受取額	360	344
利息の支払額	△33	△37
法人税等の支払額	△529	△2,130
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,862	2,951
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200	-
定期預金の払戻による収入	8	18
有形固定資産の取得による支出	△126	△82
無形固定資産の取得による支出	△75	△95
固定資産の売却による収入	27	6
投資有価証券の取得による支出	△2	△286
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,826	904
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	※2 △239
貸付けによる支出	△8	△12
貸付金の回収による収入	23	56
その他	22	△193
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,495	75

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	5,950	△2,395
長期借入れによる収入	400	700
長期借入金の返済による支出	△45	△884
リース債務の返済による支出	△36	△37
配当金の支払額	△623	△612
自己株式の取得による支出	△825	△1
自己株式の売却による収入	-	25
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,818	△3,206
現金及び現金同等物に係る換算差額	△146	△184
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	304	△363
現金及び現金同等物の期首残高	7,507	7,812
現金及び現金同等物の期末残高	※1 7,812	※1 7,449

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社数 7社

連結子会社名は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

日宝工業株式会社については、平成28年10月31日に同社の株式を取得し子会社化したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法適用、持分法非適用の非連結子会社および関連会社はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

新日本空調工程（上海）有限公司、SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED、SNK (ASIA PACIFIC) PTE. LTD.、希電科工貿（上海）有限公司及び上海希電科建築労務有限公司の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表作成に当たっては同決算日現在の決算書を使用しております。ただし、1月1日から3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、新日空サービス株式会社及び日宝工業株式会社の決算日と連結決算日は一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

②たな卸資産

未成工事支出金

個別法に基づく原価法

その他のたな卸資産

移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社については、定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

在外連結子会社については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・構築物 3年～50年

機械、運搬具及び工具器具備品 2年～20年

②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

ソフトウェア(自社利用) 5年

ソフトウェア(販売用) 3年

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

③完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保、アフターサービス等の費用に充てるため、過去の実績等を勘案して見積った額を設定しております。

④工事損失引当金

受注工事の損失に備えるため、手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ金額を合理的に見積ることができる工事について、その損失を見積った額を設定しております。

⑤訴訟損失引当金

訴訟に係る損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、主としてその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、発生年度から費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職一時金制度については、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とし、企業年金制度については、直近の年金財政上の数理債務をもって退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高および完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、前連結会計年度の工事進行基準による完成工事高は82,825百万円、当連結会計年度の工事進行基準による完成工事高は84,664百万円であります。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、20年以内のその効果の及ぶ範囲にわたって定額法により償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
現金預金(定期預金)	27百万円	27百万円
建物・構築物	一百万円	98百万円
土地	一百万円	346百万円
投資有価証券	一百万円	319百万円

※2 未成工事支出金および工事損失引当金の表示

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
工事損失引当金に対応する 未成工事支出金	8百万円	19百万円

(連結損益計算書関係)

※1 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
工事損失引当金繰入額	172百万円	392百万円

※2 一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
研究開発費	337百万円	396百万円

※3 前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
固定資産売却損の主なものは、電話加入権等の売却であります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
固定資産売却損の主なものは、賃貸用資産の売却であります。

※4 前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)および当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
固定資産除却損の主なものは、不要資産等の除却であります。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△2,136百万円	329百万円
組替調整額	△138百万円	△1百万円
税効果調整前	△2,275百万円	328百万円
税効果額	878百万円	△77百万円
その他有価証券評価差額金	△1,396百万円	251百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△147百万円	△144百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△42百万円	△159百万円
組替調整額	△10百万円	△1百万円
税効果調整前	△53百万円	△160百万円
税効果額	18百万円	49百万円
退職給付に係る調整額	△34百万円	△111百万円
その他の包括利益合計	△1,578百万円	△5百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	25,282	—	—	25,282

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	41	735	—	777

(変動事由の概要)

増加数の主な内容は、次のとおりであります。

平成27年 6 月 8 日の取締役会決議による自己株式の取得 733千株

単元未満株式の買取りによる増加 2千株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年 6 月19日 定時株主総会	普通株式	378	15.00	平成27年 3 月31日	平成27年 6 月22日
平成27年11月 5 日 取締役会	普通株式	245	10.00	平成27年 9 月30日	平成27年12月 1 日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年 6 月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	367	15.00	平成28年 3 月31日	平成28年 6 月23日

当連結会計年度(自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	25,282	—	—	25,282

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	777	23	22	778

(変動事由の概要)

増減数の主な内容は、次のとおりであります。

自己株式の増加23千株の内、22千株は当連結会計年度に連結の範囲に含めた日宝工業株式会社が保有していた提出会社（親会社）株式であり、1千株は単元未満株式の買取りによる増加であります。

自己株式の減少22千株は、上記子会社が保有していた増加株式の売却であります。

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	59
合計			—	—	—	—	59

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年 6 月22日 定時株主総会	普通株式	367	15.00	平成28年 3 月31日	平成28年 6 月23日
平成28年11月 8 日 取締役会	普通株式	245	10.00	平成28年 9 月30日	平成28年12月 5 日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年 6 月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	735	30.00	平成29年 3 月31日	平成29年 6 月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
現金預金勘定	8,210百万円	7,826百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△398百万円	△377百万円
現金及び現金同等物	7,812百万円	7,449百万円

※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

株式の取得により新たに日宝工業株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに日宝工業株式会社の取得価額と日宝工業株式会社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	2,158百万円
固定資産	998百万円
のれん	183百万円
流動負債	△1,908百万円
固定負債	△754百万円
株式の取得価額	678百万円
現金及び現金同等物	△438百万円
差引：取得のための支出	239百万円

3 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産および債務の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る 資産および債務の額	11百万円	9百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、車両(機械、運搬具及び工具器具備品)であります。

・無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
1年内	211百万円	454百万円
1年超	92百万円	579百万円
合計	304百万円	1,033百万円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については余裕資金を効率的に活用し、運用収益を確保することを目的とし安全かつ確実を旨としております。資金調達においては、資金繰り状況を考慮しながら必要な運転資金(主に銀行借入)の調達を行っております。デリバティブ取引は、為替の変動リスク、金利の変動リスク、価格の変動リスクを回避するために利用するもので、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、電子記録債権および完成工事未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券および投資有価証券は、主に取引先との関係を有する株式および余裕資金から生じた運用債券であり、これらは市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形および工事未払金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、これらは金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行に係るリスク）の管理

営業債権については、取引上の事故・損害を未然に防止することを目的として受注時に、信用調査を行っております。また、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスク（株価や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券のうち、株式については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、状況や取引先企業との関係も勘案して保有状況を継続的に見直しております。また、運用債券については、資金運用（取扱）規程に従い、信用力のある金融機関より格付けの高い債券等の取引を行っており、運用状況を定期的に経営会議に報告しております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告、入金・支払情報データ等に基づき、財務部門が適時に資金繰計画を作成し、必要最低限の借入にとどめることとし、随時、資金状況については把握しております。また、複数の金融機関から融資枠を確保しており、機動的に資金の調達が可能となる体制を整えております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金預金	8,210	8,210	—
(2) 受取手形・完成工事未収入金	50,782	50,782	—
(3) 電子記録債権	2,995	2,995	—
(4) 有価証券	404	404	—
(5) 投資有価証券	19,347	19,347	—
資産計	81,740	81,740	—
(1) 支払手形・工事未払金	33,809	33,809	—
(2) 短期借入金	9,760	9,760	—
(3) 未払法人税等	1,353	1,353	—
(4) 長期借入金	400	403	3
負債計	45,323	45,326	3

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金預金	7,826	7,826	—
(2) 受取手形・完成工事未収入金	47,164	47,164	—
(3) 電子記録債権	1,700	1,700	—
(4) 有価証券	501	501	—
(5) 投資有価証券	19,309	19,309	—
資産計	76,501	76,501	—
(1) 支払手形・工事未払金	28,299	28,299	—
(2) 短期借入金	7,602	7,602	—
(3) 未払法人税等	533	533	—
(4) 長期借入金(1年内返済予定含む)	1,009	1,011	2
負債計	37,444	37,446	2

(注) 1 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金預金、(2) 受取手形・完成工事未収入金および(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券および(5) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(1) 支払手形・工事未払金、(2) 短期借入金および(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金(1年内返済予定含む)

長期借入金(1年内返済予定含む)の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

デリバティブ取引

当社グループは、現在、デリバティブ取引は行っておりません。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	平成28年3月31日 (百万円)	平成29年3月31日 (百万円)
非上場株式	812	812
合計	812	812

非上場株式については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 有価証券および(5) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金預金	8,210	—	—	—
受取手形・完成工事未収入金	50,782	—	—	—
電子記録債権	2,995	—	—	—
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	400	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	—	1,300	—	500
合計	62,388	1,300	—	500

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金預金	7,826	—	—	—
受取手形・完成工事未収入金	47,164	—	—	—
電子記録債権	1,700	—	—	—
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	500	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	—	300	—	500
合計	57,191	300	—	500

(注) 4 長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	9,760	—	—	—	—	—
長期借入金	—	—	400	—	—	—
リース債務	32	27	16	7	3	1
合計	9,792	27	416	7	3	1

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	7,602	—	—	—	—	—
長期借入金	232	632	145	—	—	—
リース債務	38	27	12	5	1	—
合計	7,872	659	157	5	1	—

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	17,286	7,625	9,660
債券	1,719	1,709	10
小計	19,006	9,335	9,670
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	305	439	△133
債券	440	500	△59
小計	745	939	△193
合計	19,751	10,274	9,477

(注) 有価証券の減損にあたっては、時価が取得原価を50%以上下落した場合に減損処理を実施しております。
なお、30%以上50%未満下落した場合には、将来の回復可能性を検討した上で、減損処理を実施しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	18,610	8,508	10,102
債券	803	802	0
小計	19,413	9,310	10,103
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	—	—	—
債券	396	500	△103
小計	396	500	△103
合計	19,810	9,810	9,999

(注) 有価証券の減損にあたっては、時価が取得原価を50%以上下落した場合に減損処理を実施しております。
なお、30%以上50%未満下落した場合には、将来の回復可能性を検討した上で、減損処理を実施しております。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	303	138	—
合計	303	138	—

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	4	1	—
合計	4	1	—

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券について95百万円の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券について0百万円の減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として退職一時金制度および規約型確定給付企業年金制度（キャッシュバランプラン）を設けており、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

連結子会社においては、確定給付型の制度として退職一時金制度または企業年金基金制度（積立型）を設けております。

なお、連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。

また、当社および国内連結子会社は、総合設立型の厚生年金基金に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

なお、上記厚生年金基金制度の内、東京空調衛生工事業厚生年金基金については、平成28年7月に総合設立型の確定給付企業年金制度へ移行しており、空調衛生企業年金基金へと名称変更しております。また、神奈川県電設厚生年金基金については、平成30年4月に総合設立型の確定給付企業年金制度へ移行予定であります。

従業員の退職などに際して、退職給付会計基準に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない退職金を支払う場合があります。

2 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,398百万円	3,391百万円
勤務費用	237百万円	242百万円
利息費用	24百万円	24百万円
数理計算上の差異の発生額	△18百万円	124百万円
退職給付の支払額	△249百万円	△272百万円
退職給付債務の期末残高	3,391百万円	3,510百万円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
年金資産の期首残高	2,781百万円	2,788百万円
期待運用収益	69百万円	69百万円
数理計算上の差異の発生額	△60百万円	△34百万円
事業主からの拠出額	185百万円	187百万円
退職給付の支払額	△186百万円	△172百万円
年金資産の期末残高	2,788百万円	2,837百万円

(3) 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成29年 3 月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,391百万円	3,510百万円
年金資産	△2,788百万円	△2,837百万円
退職給付に係る負債	603百万円	672百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	603百万円	672百万円

(4) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
勤務費用	237百万円	242百万円
利息費用	24百万円	24百万円
期待運用収益	△69百万円	△69百万円
数理計算上の差異の費用処理額	△14百万円	△4百万円
過去勤務費用の費用処理額	3百万円	3百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	181百万円	196百万円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
過去勤務費用	3百万円	3百万円
数理計算上の差異	△56百万円	△164百万円
合計	△53百万円	△160百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成29年 3 月31日)
未認識過去勤務費用	△7百万円	△3百万円
未認識数理計算上の差異	105百万円	△58百万円
合計	98百万円	△62百万円

(7) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	11%	41%
株式	18%	16%
一般勘定	58%	29%
その他	13%	14%
合計	100%	100%

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
割引率	0.7%	0.2%
長期期待運用収益率	2.5%	2.5%
予想昇給率	5.8%	5.8%

3 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	179百万円	171百万円
退職給付費用	21百万円	41百万円
退職給付の支払額	△29百万円	△5百万円
新規連結に伴う退職給付に係る資産の増加額	一百万円	△61百万円
退職給付に係る負債の期末残高	171百万円	145百万円

(2) 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	一百万円	180百万円
年金資産	一百万円	△258百万円
非積立型制度の退職給付債務	一百万円	△78百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	171百万円	145百万円
退職給付に係る負債	171百万円	224百万円
退職給付に係る資産	一百万円	△78百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	171百万円	145百万円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度21百万円 当連結会計年度41百万円

4 確定拠出制度

当社および連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度112百万円、当連結会計年度112百万円であります。

5 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度219百万円、当連結会計年度231百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

1) 空調衛生企業年金基金

	前連結会計年度 平成27年 3月31日現在	当連結会計年度 平成28年 3月31日現在
年金資産の額	41,829百万円	40,402百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	53,355百万円	51,357百万円
差引額	△11,525百万円	△10,955百万円

2) 神奈川県電設厚生年金基金

	前連結会計年度 平成27年 3月31日現在	当連結会計年度 平成28年 3月31日現在
年金資産の額	一百万円	38,819百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	一百万円	49,398百万円
差引額	一百万円	△10,578百万円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

	前連結会計年度 平成27年 3月31日現在	当連結会計年度 平成28年 3月31日現在
空調衛生企業年金基金	18.4%	18.5%
神奈川県電設厚生年金基金	—%	1.1%

(3) 補足説明

1) 平成27年 3月31日現在

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高△12,692百万円、当年度剰余金737百万円および別途積立金429百万円であり、その償却方法は期間16年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

2) 平成28年 3月31日現在

①空調衛生企業年金基金

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高△12,029百万円および別途積立金1,073百万円であり、その償却方法は期間15年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

②神奈川県電設厚生年金基金

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高△5,727百万円、繰越不足金△5,871百万円およびその他1,019百万円であり、その償却方法は期間16年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費のその他	一百万円	59百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成28年8月4日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役（社外取締役を除く）9名 当社執行役員 15名
株式の種類及び付与数（注）	普通株式 70,400株
付与日	平成28年8月22日
権利確定条件	権利確定条件は付しておりません。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成28年8月23日～平成58年8月22日

（注）株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成29年3月期)において存在したスtock・オプションを対象とし、スtock・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① スtock・オプションの数

会社名	提出会社
決議年月日	平成28年8月4日
権利確定前(株)	
前連結会計年度末	—
付与	70,400
失効	—
権利確定	61,900
未確定残	8,500
権利確定後(株)	
前連結会計年度末	—
権利確定	61,900
権利行使	—
失効	—
未行使残	61,900

② 単価情報

会社名	提出会社
決議年月日	平成28年8月4日
権利行使価格(円)	1
行使時平均株価(円)	—
付与日における公正な評価単価(円)	960

3 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性	(注) 1	27.382%
予想残存期間	(注) 2	2.9年
予想配当	(注) 3	25円/株
無リスク利子率	(注) 4	△0.202%

- (注) 1. 平成25年9月28日から平成28年8月22日までの株価実績にもとづき算定しております。
2. 過去10年間の役員の退任状況にもとづき、新株予約権付与後の役員の平均退任年齢を算出した後、役員ごとの付与個数を考慮し予想残存期間を2.9年と見積もっております。
3. 平成28年3月期の配当実績によります。
4. 予想残存期間に近似する期間の長期国債の複利利回りの平均値であります。

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	274百万円	270百万円
貸倒引当金	121	98
未払従業員賞与	608	799
ゴルフ会員権評価損	82	80
投資有価証券評価損	107	106
自社利用土地評価損	188	188
減損損失	28	43
未払社会保険料	96	116
未払事業税	96	50
工事損失引当金	296	313
その他	255	307
繰延税金資産小計	2,155	2,375
評価性引当額	△430	△418
繰延税金資産合計	1,725	1,957
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△2,864	△2,975
在外子会社留保利益	△86	△75
その他	△30	△26
繰延税金負債合計	△2,981	△3,077
繰延税金資産の純額	△1,256	△1,119

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率 (調整)	33.1%	30.9%
永久に損金に算入されない項目	2.3	2.6
永久に益金に算入されない項目	△0.4	△0.3
住民税均等割等	1.7	1.5
在外子会社税率差額	△1.3	△1.5
評価性引当額	△0.2	△1.0
特別税額控除	△2.2	△2.3
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.7	—
在外子会社留保利益	△0.2	△0.3
その他	3.0	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.5	30.3

(企業結合等関係)

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称：日宝工業株式会社

事業の内容：産業施設設備工事事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループは、空調を核としつつ電気、衛生、自動計装、防災等設備全般にワンストップで取り組む総合エンジニアリング企業であります。

日宝工業株式会社は、昭和30年に設立以来、大手自動車会社や大手食品メーカーを中心とした工場の電気設備および産業施設設備の工事に強みを持つ会社であります。

日宝工業株式会社の株式取得により、従来の両社の強みを活かした新たなサービスを提供することができ、さらに両社の技術力の共有等によるシナジーも十分に見込めるため取得したものです。

(3) 企業結合日

平成28年10月31日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成28年11月1日から平成29年3月31日まで

3 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	678百万円
取得原価		678百万円

4 企業結合契約に定められた条件付取得対価の内容及びそれらの今後の会計処理方針

譲渡契約に基づき、取得対価は今後一定の事象が発生することに伴い、変動する可能性があります。取得対価の追加支払が発生した場合、取得時に支払ったものとみなして取得原価を修正し、のれんの金額及びのれんの償却額を修正することとしています。

5 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 38百万円

6 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

183百万円

なお、上記の金額は暫定的に算定された金額です。

(2) 発生原因

主に今後の事業展開によって期待される超過収益力によるものです。

(3) 償却方法及び償却期間

1年間の均等償却

7 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 2,158百万円

固定資産 998百万円

資産合計 3,157百万円

流動負債 1,908百万円

固定負債 754百万円

負債合計 2,662百万円

8 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高 3,923百万円

営業利益 183百万円

経常利益 210百万円

税金等調整前当期純利益 315百万円

親会社株主に帰属する当期純利益 207百万円

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社グループの事業は、設備工事業単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループの事業は、設備工事業単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)東芝	12,939	設備工事業

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社グループは、設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループは、設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループは、設備工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	1,526.06円	1,620.61円
1株当たり当期純利益金額	95.47円	119.76円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	潜在株式がないため 記載しておりません。	119.57円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,355	2,934
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,355	2,934
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,675	24,502
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	2,934
普通株式増加数(千株)	—	38
(うち新株予約権(千株))	(一)	(38)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	9,760	7,602	0.43	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	232	0.60	—
1年以内に返済予定のリース債務	32	38	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	400	777	0.63	平成30年4月～ 平成31年10月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	56	47	—	平成30年4月～ 平成34年1月
合計	10,248	8,697	—	—

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	632	145	—	—
リース債務	27	12	5	1

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
完成工事高(百万円)	18,864	42,391	68,405	101,202
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は 税金等調整前四半期純損失金額(△)(百万円)	△12	1,244	2,570	4,207
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金 額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金 額(△)(百万円)	△5	869	1,764	2,934
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△0.21	35.49	72.03	119.76

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△0.21	35.70	36.54	47.73

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年 3 月31 日)	当事業年度 (平成29年 3 月31 日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	4,088	4,691
受取手形	523	750
電子記録債権	2,995	1,690
完成工事未収入金	48,206	40,888
有価証券	404	501
未成工事支出金	639	630
その他のたな卸資産	18	22
前払費用	231	284
繰延税金資産	1,320	1,225
関係会社短期貸付金	240	392
立替金	52	383
その他	468	186
貸倒引当金	△260	△221
流動資産合計	58,929	51,427
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,908	6,000
減価償却累計額	△3,725	△3,846
建物（純額）	2,182	2,154
構築物	457	458
減価償却累計額	△416	△421
構築物（純額）	40	37
機械及び装置	54	21
減価償却累計額	△54	△21
機械及び装置（純額）	0	0
車両運搬具	4	4
減価償却累計額	△4	△4
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品	864	891
減価償却累計額	△749	△712
工具、器具及び備品（純額）	114	179
土地	510	505
リース資産	78	77
減価償却累計額	△39	△42
リース資産（純額）	38	34
有形固定資産合計	2,887	2,911
無形固定資産		
借地権	2	2
ソフトウェア	201	271
リース資産	33	17
その他	4	3
無形固定資産合計	242	296

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年 3 月31 日)	当事業年度 (平成29年 3 月31 日)
投資その他の資産		
投資有価証券	20,152	19,715
関係会社株式	105	821
出資金	1	1
関係会社出資金	996	996
従業員長期貸付金	259	215
破産更生債権等	-	14
長期滞留債権等	67	-
長期前払費用	10	5
長期保証金	837	834
長期保険料	1,757	1,808
その他	23	213
貸倒引当金	△131	△95
投資その他の資産合計	24,080	24,531
固定資産合計	27,210	27,738
資産合計	86,139	79,165
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,465	1,473
工事未払金	※1 30,633	※1 23,648
短期借入金	9,750	6,142
1年内返済予定の長期借入金	-	232
リース債務	32	29
未払金	46	287
未払費用	2,204	2,662
未払法人税等	1,213	355
未成工事受入金	981	958
預り金	120	256
役員賞与引当金	90	104
完成工事補償引当金	78	75
工事損失引当金	959	730
その他	22	1,029
流動負債合計	47,599	37,987
固定負債		
長期借入金	400	777
リース債務	56	35
繰延税金負債	2,606	2,652
退職給付引当金	701	610
その他	0	4
固定負債合計	3,764	4,080
負債合計	51,364	42,067

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年 3 月31日)	当事業年度 (平成29年 3 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,158	5,158
資本剰余金		
資本準備金	6,887	6,887
資本剰余金合計	6,887	6,887
利益剰余金		
利益準備金	593	593
その他利益剰余金		
別途積立金	11,740	11,740
繰越利益剰余金	4,542	6,583
利益剰余金合計	16,875	18,916
自己株式	△852	△854
株主資本合計	28,069	30,109
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,705	6,930
評価・換算差額等合計	6,705	6,930
新株予約権	-	59
純資産合計	34,775	37,098
負債純資産合計	86,139	79,165

② 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
完成工事高	90,083	87,358
完成工事原価	81,488	78,269
完成工事総利益	8,595	9,089
販売費及び一般管理費		
役員報酬	209	217
従業員給料及び手当	2,567	2,752
役員賞与引当金繰入額	90	104
株式報酬費用	-	59
退職給付費用	133	142
法定福利費	343	375
福利厚生費	90	88
修繕維持費	128	175
事務用品費	123	125
通信交通費	252	264
動力用水光熱費	18	17
調査研究費	28	25
広告宣伝費	55	61
貸倒引当金繰入額	△44	△34
交際費	118	133
寄付金	2	7
地代家賃	537	538
減価償却費	172	212
租税公課	190	264
保険料	73	46
雑費	651	535
販売費及び一般管理費合計	5,745	6,113
営業利益	2,850	2,976
営業外収益		
受取利息	9	7
有価証券利息	57	31
受取配当金	※1 386	※1 624
その他	43	72
営業外収益合計	496	736
営業外費用		
支払利息	23	19
前払金保証料	5	4
その他	10	3
営業外費用合計	39	28
経常利益	3,307	3,684

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
特別利益		
固定資産売却益	4	-
投資有価証券売却益	138	1
投資有価証券償還益	54	-
特別利益合計	198	1
特別損失		
固定資産売却損	※2 3	※2 5
固定資産除却損	※3 0	※3 0
投資有価証券評価損	95	0
減損損失	28	-
特別損失合計	128	6
税引前当期純利益	3,376	3,679
法人税、住民税及び事業税	1,433	948
法人税等調整額	△149	77
法人税等合計	1,284	1,026
当期純利益	2,092	2,653

【完成工事原価報告書】

		前事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 材料費		21,702	26.6	19,217	24.6
II 労務費		2,726	3.3	2,799	3.6
(うち労務外注費)		(2,726)	(3.3)	(2,799)	(3.6)
III 外注費		44,574	54.8	43,925	56.1
IV 経費		12,484	15.3	12,326	15.7
(うち人件費)		(7,082)	(8.7)	(7,245)	(9.3)
計		81,488	100.0	78,269	100.0

(注)原価計算の方法は、個別原価計算の方法に基づき材料費、労務費、外注費および経費の各原価要素に区分して実際原価によって計算しております。

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	5,158	6,887	6,887
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	5,158	6,887	6,887

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	593	11,740	3,073	15,407	△26	27,426	
当期変動額							
剰余金の配当			△623	△623		△623	
当期純利益			2,092	2,092		2,092	
自己株式の取得					△825	△825	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	1,468	1,468	△825	643	
当期末残高	593	11,740	4,542	16,875	△852	28,069	

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	8,100	8,100	-	35,527
当期変動額				
剰余金の配当				△623
当期純利益				2,092
自己株式の取得				△825
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△1,394	△1,394	-	△1,394
当期変動額合計	△1,394	△1,394	-	△751
当期末残高	6,705	6,705	-	34,775

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	5,158	6,887	6,887
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	5,158	6,887	6,887

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
		別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	593	11, 740	4, 542	16, 875	△852	28, 069
当期変動額						
剰余金の配当			△612	△612		△612
当期純利益			2, 653	2, 653		2, 653
自己株式の取得					△1	△1
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	2, 040	2, 040	△1	2, 039
当期末残高	593	11, 740	6, 583	18, 916	△854	30, 109

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	6,705	6,705	-	34,775
当期変動額				
剰余金の配当				△612
当期純利益				2,653
自己株式の取得				△1
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	224	224	59	283
当期変動額合計	224	224	59	2,323
当期末残高	6,930	6,930	59	37,098

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法に基づく原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 未成工事支出金

個別法に基づく原価法

(2) その他のたな卸資産

移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年 ～ 45年

構築物 10年 ～ 50年

工具、器具及び備品 2年 ～ 20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

ソフトウェア(自社利用) 5年

ソフトウェア(販売用) 3年

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(3) 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保、アフターサービス等の費用に充てるため、過去の実績等を勘案して見積った額を設定しております。

(4) 工事損失引当金

受注工事の損失に備えるため、手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ金額を合理的に見積ることができる工事について、その損失を見積った額を設定しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、発生年度から費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

5 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、前事業年度の工事進行基準による完成工事高は78,691百万円、当事業年度の工事進行基準による完成工事高は75,947百万円であります。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する工事未払金

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
工事未払金	670百万円	485百万円

2 保証債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
日宝工業株式会社の金融機関からの借入等に対する保証	一百万円	700百万円
SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED の主に受注工事に係る金融機関からの契約履行保証に対する保証	257百万円	474百万円
SNK (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. の主に受注工事に係る金融機関からの契約履行保証に対する保証	624百万円	249百万円

(損益計算書関係)

※1 関係会社からの受取配当金

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
受取配当金	151百万円	371百万円

※2 前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

固定資産売却損の主なものは、電話加入権等の売却であります。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

固定資産売却損の主なものは、賃貸用資産の売却であります。

※3 前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)および当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

固定資産除却損の主なものは、不要資産等の除却であります。

(有価証券関係)

前事業年度(平成28年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額105百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成29年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額821百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	215百万円	186百万円
貸倒引当金	120	97
未払従業員賞与	568	718
ゴルフ会員権評価損	82	80
投資有価証券評価損	107	106
自社利用土地評価損	188	188
減損損失	28	18
未払社会保険料	88	108
未払事業税	87	41
工事損失引当金	296	224
その他	224	117
繰延税金資産小計	2,008	1,889
評価性引当額	△430	△389
繰延税金資産合計	1,577	1,499
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△2,863	△2,927
繰延税金負債合計	△2,863	△2,927
繰延税金資産の純額	△1,285	△1,427

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.1%	30.9%
(調整)		
永久に損金に算入されない項目	2.5	3.0
永久に益金に算入されない項目	△1.9	△3.5
住民税均等割等	1.9	1.7
評価性引当額	△0.2	△1.1
特別税額控除	△2.6	△2.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.2	—
その他	3.0	△0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.0	27.9

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表の「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	オリンパス(株)	720,361	3,029
		三井不動産(株)	1,000,557	2,505
		日本電設工業(株)	1,000,000	2,013
		東海旅客鉄道(株)	59,000	1,089
		久光製薬(株)	138,000	859
		(株)ヤクルト本社	138,512	846
		(株)帝国ホテル	370,000	780
		住友不動産(株)	205,000	619
		(株)東京エネシス	600,000	589
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	101,613	408
		(株)タクマ	344,000	363
		(株)ツムラ	100,000	346
		西日本旅客鉄道(株)	45,000	336
		日本フェンオール(株)	228,800	324
		ダイビル(株)	308,727	316
		太平電業(株)	269,000	302
		J A 三井リース(株)	126,500	299
		東プレ(株)	97,900	289
		(株)世界貿易センタービル	100,000	266
		日本パーカライジング(株)	176,000	243
		日本ドライケミカル(株)	96,000	231
		日機装(株)	171,000	209
		第一生命ホールディングス(株)	88,500	192
		N O K(株)	70,200	184
		ゼリア新薬工業(株)	100,100	179
		平和不動産(株)	106,200	168
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	38,683	165
		(株)日阪製作所	172,000	164
		生化学工業(株)	79,600	147
		前澤化成工業(株)	110,300	131
		日本化学産業(株)	100,000	123
		アズビル(株)	30,000	112
		アジア航測(株)	213,000	110
		名糖産業(株)	75,000	110
		アジアパイルホールディングス(株)	170,300	110

銘柄			株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	コスモバイオ(株)	89,600	102
		野村不動産ホールディングス(株)	50,000	94
		京阪ホールディングス(株)	115,500	81
		A N Aホールディングス(株)	215,408	74
		空港施設(株)	128,108	72
		関西国際空港土地保有(株)	1,140	57
		三井住友建設(株)	416,100	52
		(株)デベロッパー三信	52,000	52
		その他20銘柄	267,533	256
合計			9,085,242	19,016

【債券】

銘柄			券面総額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)
有価証券	その他 有価証券	第21回 日新製鋼社債	400	400
		第39回 野村ホールディングス社債	100	100
		小計	500	501
投資 有価証券	その他 有価証券	Kommunalkredit Austria AG ユーロ円建 パワーリバースデュアル債	500	396
		第29回 ソニー社債	300	302
		小計	800	699
合計			1, 300	1, 200

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額 又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	5,908	114	21	6,000	3,846	142	2,154
構築物	457	1	—	458	421	4	37
機械及び装置	54	—	33	21	21	—	0
車両運搬具	4	—	—	4	4	—	0
工具、器具及び備品	864	121	94	891	712	56	179
土地	510	—	4	505	—	—	505
リース資産	78	9	10	77	42	13	34
有形固定資産計	7,879	245	164	7,960	5,048	215	2,911
無形固定資産							
借地権	—	—	—	2	—	—	2
ソフトウェア	—	—	—	448	176	75	271
リース資産	—	—	—	80	62	16	17
その他	—	—	—	3	—	—	3
無形固定資産計	—	—	—	535	239	91	296
長期前払費用	25	0	2	23	17	5	5

(注) 無形固定資産の金額が、資産の総額の100分の1以下であるため「当期首残高」「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略いたしました。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	392	238	43	269	316
役員賞与引当金	90	104	90	—	104
完成工事補償引当金	78	75	78	—	75
工事損失引当金	959	416	315	330	730

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率洗替額262百万円および回収による戻入額7百万円であります。

2 工事損失引当金の「当期減少額(その他)」は、引当金対象工事の損益改善等に伴う取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	———
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	公告方法は電子公告によりおこないます。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しておこないます。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しております。 (ホームページアドレス http://www.snk.co.jp/)
株主に対する特典	当社は株主優待制度および長期保有優待制度を導入しております。 株主優待制度 (1) 対象となる株主様 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主様 (2) 優待品 カタログギフト2,000円相当 長期保有優待制度 (1) 対象となる株主様 毎年9月30日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主様のうち、2年以上継続して保有している株主様 (2) 優待品 キッズスマイルQUO カード1,000円分

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利および株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社に親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|-----|---|---------------------|-------------------------------|-------------------------|
| (1) | 有価証券報告書
およびその添付書類、確認書 | 事業年度
(第47期) | 自 平成27年4月1日
至 平成28年3月31日 | 平成28年6月23日
関東財務局長に提出 |
| (2) | 内部統制報告書 | 事業年度
(第47期) | 自 平成27年4月1日
至 平成28年3月31日 | 平成28年6月23日
関東財務局長に提出 |
| (3) | 四半期報告書
および確認書 | 事業年度
(第48期第1四半期) | 自 平成28年4月1日
至 平成28年6月30日 | 平成28年8月4日
関東財務局長に提出 |
| | | 事業年度
(第48期第2四半期) | 自 平成28年7月1日
至 平成28年9月30日 | 平成28年11月8日
関東財務局長に提出 |
| | | 事業年度
(第48期第3四半期) | 自 平成28年10月1日
至 平成28年12月31日 | 平成29年2月6日
関東財務局長に提出 |
| (4) | 臨時報告書
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 | | | 平成28年6月27日
関東財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6 月23日

新日本空調株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 城 戸 和 弘 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 水 野 博 嗣 ㊞

＜財務諸表監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新日本空調株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新日本空調株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、新日本空調株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、新日本空調株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年 6 月23日

新日本空調株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 城 戸 和 弘 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 水 野 博 嗣 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新日本空調株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第48期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新日本空調株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月26日
【会社名】	新日本空調株式会社
【英訳名】	Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 夏 井 博 史
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役管理本部長 山 田 勇 夫
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号
【縦覧に供する場所】	新日本空調株式会社 関東支店 (千葉県中央区中央一丁目11番1号) 新日本空調株式会社 横浜支店 (横浜市中区住吉町四丁目45番1号) 新日本空調株式会社 名古屋支店 (名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号) 新日本空調株式会社 大阪支店 (大阪市西区土佐堀二丁目2番4号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長 夏井博史 および当社最高財務責任者 山田勇夫 は、当社グループの財務報告に係る内部統制の整備および運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備および運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当連結会計年度の末日である平成29年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備および運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社および連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。

財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的および質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額的重要性が高い拠点を主に合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2／3に達している事業拠点を「重要な事業拠点」としました。

なお、連結子会社7社については、金額的および質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制および業務プロセスに係る内部統制の評価範囲に含めておりません。但し、日宝工業株式会社については全社的な内部統制を評価範囲に含めております。

選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として「完成工事高」「完成工事未収入金」「未成工事支出金」に至る業務プロセスを評価の対象としました。

さらに、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当連結会計年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月26日
【会社名】	新日本空調株式会社
【英訳名】	Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 夏井博史
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役管理本部長 山田勇夫
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号
【縦覧に供する場所】	新日本空調株式会社 関東支店 (千葉市中央区中央一丁目11番1号) 新日本空調株式会社 横浜支店 (横浜市中区住吉町四丁目45番1号) 新日本空調株式会社 名古屋支店 (名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号) 新日本空調株式会社 大阪支店 (大阪市西区土佐堀二丁目2番4号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 夏井博史 および当社最高財務責任者 山田勇夫 は、当社の第48期(自平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。